

「フリースクール等に関するモデル事業」業務委託 調査報告書

令和6年12月20日

千葉県教育委員会教育長 様

所在地 千葉市若葉区多部田町752-10

郵便番号 265-0066

事業者名 NPO法人COCO.NET

代表者職・氏名 理事長・漆原幸子

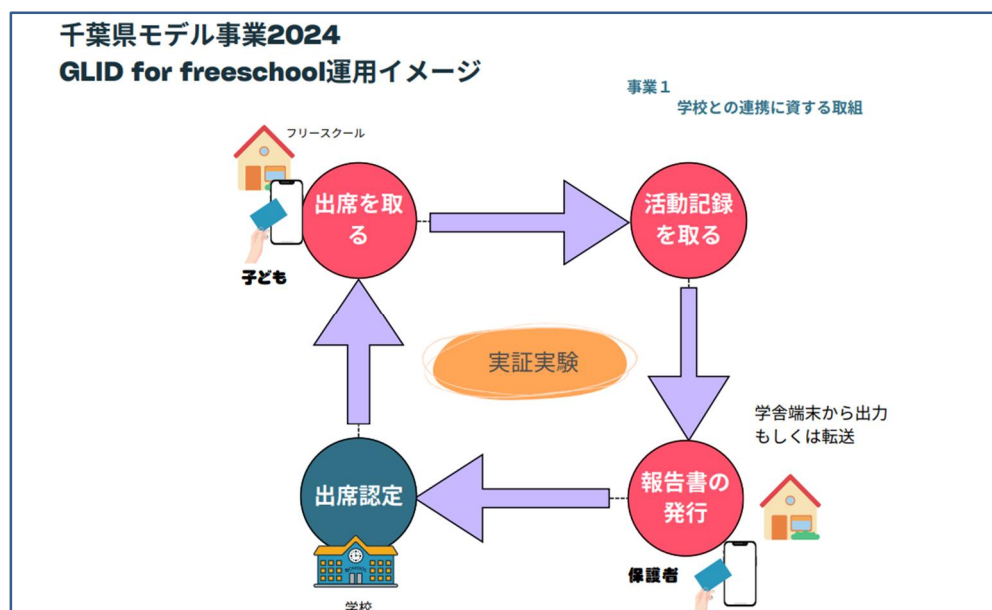
「フリースクール等に関するモデル事業」業務委託について、別添のとおり報告します。

(1) フリースクール等と学校との連携
ア フリースクール等と学校との効果的な情報共有
①フリースクールと学校との情報共有媒体の提案 仕様書4(1)アの取組 一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様が開発した個人別活動ポートフォリオ作成アプリ「GLID for フリースクール」を使用しての実証実験について報告する。本事業では、学校との簡便でスムーズな情報共有を目指し、アプリを使用した連携のための実証実験を行った。学校との連携について、当フリースクールでは現状以下のような課題を抱えている。 課題① その月の報告を当月末日に学校から提出を求められる場合がある点。 課題② 紙媒体でのみの報告書提出を求められる場合、保護者の負担感が大きくなりがちな点(紙媒体での提出に関しての現状については、一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様に実施いただいた保護者へのアンケート調査から明らかになっている)。 出席認定に係る学校への出席と活動の報告については、学校側からフリースクールに対し、報告書提出を月末に求められるケースが多い。しかしながら、フリースクールの活動が月末までであることを考えると、フリースクール側に事務的処理の猶予が与えられないというのは、連携において大きな支障となる。これまで当フリースクールにおいては、事務を担う人員もボランティアであり、出席および活動報告は月末の活動日から保護者の手に渡るまでに10日程度を要することについて丁寧に説明し、多くの学校から理解を得てきた。しかし、学校によっては、保護者に対し出席日数だけは先に知らせて欲しいとの要望があがることも多く、月末に電話連絡をした上で、後日報告書を提出しているといった事例も聞き及んでいる。また学校メールの使用が不可とのことで、学校への報告書提出が紙媒体でなければならないといったケースもあり、そうした学校ごとの要望に応じることがフリースクールにとってのみならず、双方の間に立つ保護者にとっても連携を取る上での負担感につながりやすい。 フリースクール等が連携業務を担う動機は、少なくとも当フリースクールがこうした業務を担う理由は、出席認定に係る連携が、子どもや保護者の「安心」につながるための、学校ひいては社会からの「ポジティブな反応」のひとつであると考えているからである。出席認定を受けること自体が、子どもの最善の利益ではない。子どもの最善の利益とは、その子どもが自身の育ちや在り方を当たり前とされ、多様で自己尊重される教育を当たり前のこととして享受できることに他ならない。しかし、子どもがフリースクールでの生活を自分なりの育ちや在り方のひとつとして、またフリースクールでの様々な活動を多様な学びのひとつの経験として、学校から「出席」という形式でもって認められることは、子どもにとって保護者にとってひとつの安心となり得ることであり、そのために連携業務を担うのである。 しかしながら、月末締めめの報告や学校ごとの要求に応じた連携はある意味ではフ

リースクールが一方的に担う業務負担となりやすく、誰が、どこまで、どんなふうにするという連携の本来の意義について、議論のないままとなっているのが現状である。

本事業では、連携のひとつの在り方として、保護者、リースクール、学校の3者において簡便で、負担が少なく、かつスムーズな双方向の共有を目指し、アプリを活用した実証実験を試みた。

以下に、[GLID for フリースクール]アプリの運用モデルを示す。



アプリ端末で子どもひとりひとりのカードから出席を読み取り、スタッフ（常時4～5名ほどのスタッフが活動に入っている）が子ども達の様々な活動をチャット形式の画面にて入力する。あわせて画像を撮影もしくはスマートフォンで撮った画像をアップロードすることにより、その日のうちにその日の出席管理と活動記録の完成が可能となる。記録を報告書として出力する際には、所定の画面から期間を指定し、子どもひとりひとりの名前で活動記録を検索してPDFとして出力し、メールにて転送する。または印刷をして提出するという流れを取る。これによってリースクールは事務員を配置せずとも、活動の記録を含めた出席日数と活動報告書を月末に学校側へ共有することができるというものである。

リースクールにおいて、アプリ使用のメリットは、スマートフォンは持ち運びができ、フリック入力での操作が簡便であること、複数名のスタッフが一度に情報を入力することができることにある。そのため、別々の場所で活動している子ども達それぞれの活動内容を比較的抜け漏れなく入力することが可能となる。また、入力しただけでは報告書に上がってこないようになっており、報告書に追加する情報は画面長押しによって追加される仕様となっている。ひと手間ではあるが、これはスタッフ間だけで共有すべき情報を誤って報告書にあげてしまわないようにするためである。機能としては主に4つあり、「本日の活動」「記録を編集」「報告書作成」「出席データダウンロード」となっている。使用の手順に

については、以下の図1に示す。

スタッフが日々の記録を付けるのに使用するのは「本日の活動」「記録を編集」であり、出席と活動報告書をPDFで転送するには「報告書作成」を使用する。「出席データダウンロード」は年度末にNPOとして全体の出席データを管理するために使用する機能となっている。

図1 アプリの使用手順について



図2 出席と活動報告書（PDF）としての出力見本

活動報告書 2024/10/1 ~ 2024/10/31

出席記録

下記の通り _____ さんの2024/10/1 ~ 2024/10/31の活動を報告します。

日時	出席
10/1(火)	
10/2(水)	
10/3(木)	
10/4(金)	○
10/5(土)	
10/6(日)	
10/7(月)	○
10/8(火)	
10/9(水)	○
10/10(木)	
10/11(金)	
10/12(土)	
10/13(日)	
10/14(月)	
10/15(火)	
10/16(水)	○
10/17(木)	
10/18(金)	
10/19(土)	
10/20(日)	
10/21(月)	○
10/22(火)	
10/23(水)	○
10/24(木)	
10/25(金)	○
10/26(土)	
10/27(日)	
10/28(月)	○
10/29(火)	
10/30(水)	○
10/31(木)	

この報告書は一般社団法人学習圏開発機構が提供する「GLSD for フォースターズ」で作成されました。 1 / 10ページ

活動報告書 2024/10/1 ~ 2024/10/31

活動詳細

10/4(金) NPO法人COCO.NET

・ピアノ
 猫のレク(あやちゃん考案)
 ワードカルフ
 粘土
 学びプログラム 英語
 すころく
 学びプログラム 算数
 ねこぼす算数
 ドミノ
 犬と戯れる
 帰りのサークル



10/7(月) NPO法人COCO.NET

二十のとびら
 学びプログラム 英語
 halloweenのに関する単語の勉強
 (10/28 halloween lesson)
 ゲーム 1円玉の大きさ覚えてる？

この報告書は一般社団法人学習圏開発機構が提供する「GLSD for フォースターズ」で作成されました。 2 / 10ページ

次に、アプリ実装におけるこれまでの具体的経過について以下に示す。

2024年8月30日

スタッフおよび一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様の社員による事前打合せと実装前の準備を行った。スタッフのスマートフォンにアプリをダウンロードし、まずスタッフの登録作業を行った。その後、1人ずつアプリを起動し、出席とコメントや画像が入力できるか確認を行った。



(一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 社員からスタッフが直接レクチャーを受けている様子)

2024年9月2日(活動日初日)から実施し、2024年12月18日までの記録を行った。機能面での不具合やバグについてはグループ LINE にてスタッフそれぞれが逐一報告を上げるようにし、一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様に情報を共有した。9月いっぱいをかけてアプリを実際に運用し、バグや活動中に支障が出た箇所について報告、修正と整備を繰り返し行っていた。

9月末に1回目の報告書出力を行い、保護者自身にデータを転送または印刷する作業を行ってもらい学校への提出を行った。その際に課題となったのは、画像データ容量が大きく、メールでの転送ができないことであった。また、印刷する場

合には報告書が1か月間で14～15枚の枚数に及んだため、印刷についても課題となった。これについて一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様に報告し、翌10月に打合せを行うこととした。

2024年10月23日

Zoomによる打合せ(一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 代表と COCO.NET 代表)

9月の状況を踏まえ、アプリ修正における打合せを行った。使用中に見つかったその他のバグや修正箇所についてあらためて情報共有を行った。具体的には、日付を遡って過去の出席者からその日の出席登録ができるように仕様を追加し、データ容量が大きい点に関しては、応急措置として出席日数を記載した1ページのみメール転送できるよう修正していただくこととした。

2024年10月末日

アプリからデータを出力して転送、または印刷して学校へ提出。

依然としてデータ容量が大きかったため、出席記録のみをメール対応可能な学校に転送した。詳細記録は PDF 出力にて各家庭ごとに提出いただいた。紙媒体での提出も必要に応じて行っていた。

2024年11月中

修正申請箇所の更新。絵文字に対応、報告書ファイル名に期間の日付を埋め込み、報告書フォーマットを選べるよう追加、活動報告書の初期値を前月初日-前月最終日に変更していただいた。

2024年11月30日

メールでの連携についての案内を作成し、保護者より通達、印刷して持参していただくようお願いし、メール対応可能な学校にはメール転送を行った。紙媒体での提出については、インク切れにて学舎での印刷ができなかったため、各家庭により印刷を行っていただいた。

2024年12月4日

Zoomによる打合せ(一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 代表と COCO.NET 代表)

データを圧縮できるよう修正を加えていただき、12月の報告書についてはメールにてすべての情報が転送できる仕様に整えていただいた。12月18日に年内の活動を終了。その後学校に転送したところ、データ超過にてメールが送れなかった。この時点において、一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様へ報告したところ、学校側のメール受信に関する何らかの問題があるのではないかという点が指摘された。

12月10日～12月17日

一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様から保護者へのヒアリング（アンケート）を実施していただいた。

結果については別紙を参照。

学校への聴取

メールでの転送と連携が取れている小学校（1校）について、法人代表より感想をヒアリングした。以下に感想を記す。

「PDF 送信連携による報告書形式はとてもわかりやすいです。今後も定着していけばよいと思いました。」（千葉市中央区 小学校）

本事業において、一般社団法人学習圏開発機構 LeSDA 様が開発した個人別活動ポートフォリオ作成アプリ「GLID for フリースクール」を使用した活動記録および画像を含む全ての情報をメール転送できる仕様にまで整えることができた。しかしながら、メールにおけるすべてのデータ転送はできなかった。この原因を解明し、1～3月までの期間でさらにメールでの連携を推進する運びである。

イ フリースクール等における学習や活動内容が学校における適切な評価につながるための手法

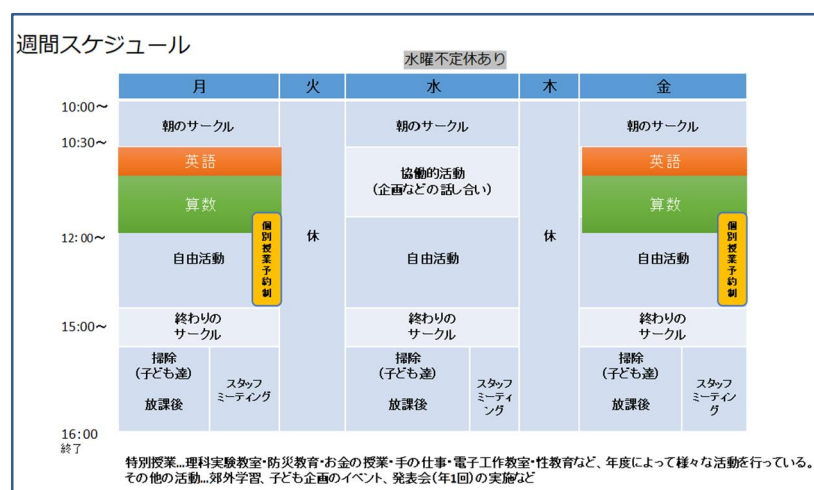
該当事業なし

ウ その他

該当事業なし

（2）フリースクール等と学校・教育委員会との協力による児童生徒の社会的自立に資する取組

当フリースクールでは、午前中に「まなびプログラム」と称した学習時間を、また午後からは子ども主体の自由な活動時間として「自由活動」を設けている。月曜日と金曜日の午前中は英語、算数、そして月1回の国語を主要カリキュラムとしており、午後の自由活動では、子どもがやりたい遊びや興味関心のある活動体験を中心に過ごす。プレイリーダーやスタッフが子ども達の集団に入ったり、個別の活動に寄り添いながら、協働的な活動にも取り組んでいる。



①プレイリーダーを中心とした自由活動の提案

仕様書オ「その他、児童生徒の社会的自立に資する取組」

フリースクールにおけるプレイリーダーの役割は、子どもの集団の中に入って遊

ぶ、活動をともにすることである。また個々の子どもに関わり、子どもと密にコミュニケーションを取ることにある。本事業においては、9月～3月末日までの活動期間のうち、プレイリーダーに参加してもらう回数を45回設定した。

□プレイリーダーとの朝のレクリエーション

朝のサークル時間は、日直をくじびきで決めるところからスタートしている。日直の子どもが司会をしながら、サークルの中で、場のウォーミングアップとしてレクリエーションを実施している。子どもがレクリエーションを考えて持ってきた場合は子どもに実施してもらい、子ども達からの提案がないときにはプレイリーダーやスタッフがレクリエーションを行えるよう準備していることが多い。

以下の画像は、プレイリーダーがクイズを出して子ども達が答えたり、プレイリーダーによるレクリエーションに子ども達が参加している様子である。フリースクールに通いはじめでまだ集団になじめなかったり、授業へのハードルが高い子ども達にとって、朝一番のプレイリーダーが携わるレクリエーションは、おもしろい、楽しいといった経験につながりやすく、場に馴染みやすくなる活動のひとつである。



□プレイリーダーとの遊び（カードゲーム等）

午後からの自由活動では、普段から子ども達がカードゲームなどを楽しむことも多い。カードゲームはルールを共有し、相手とのやりとりの中で成立する活動であるため、言語力、思考力、コミュニケーション力、推察力など多様な力を要する。プレイリーダーが状況に応じて場のコミュニケーションを促したり、子どもを集団に誘導したり、ゲームを盛り上げたりしている。



□プレイリーダーとの外遊び

子ども達は学舎の目の前の公園や近くの公園まで繰り出して、外遊びを楽しむことが多い。大人と遊具で楽しむこともあれば、おにごっこや缶蹴りといった集団での遊びを異年齢で行うこともある。プレイリーダーは、集団遊びの中心で子ども達の遊びがうまく成立するための潤滑油となったり、トラブルの仲裁役として社会的ロールモデルを演じたり、ときには集団の外側から遊びを見守ったりしながら、子ども達が遊びを楽しめるよう働きかけている。

鬼ごっこなどの集団あそびは、やりたいけれど鬼になるのをとても嫌がる子どもがいる。年齢に関係なく、ゲームや遊びの中で人に負けたくないという気持ちが強いことがある。遊びのおもしろさや集団の中でのかけひきの面白さがわかっていても、鬼になりたくない、負けたくないという気持ちが強く、集団遊びに参加しづらい子ども達がいる。プレイリーダーは鬼役や負け役をうまく引き受けながら、そうした子ども達の、やりたいけれど鬼はいや、楽しみたいけれど負けたくないといった二項対立の気持ちへの緩衝材となり、集団遊びのハードルを下げ、子ども達が社会性を育む基盤となるようなルール遊びや、集団での関係づくりを経験することに貢献している。

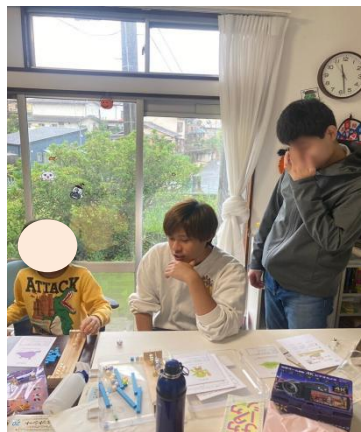
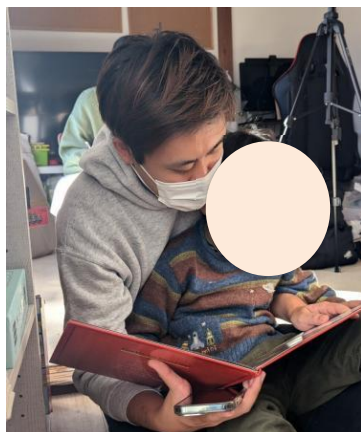


□学習のサポート

プレイリーダーは、当フリースクール独自の学習サポート講習を受け、学習活動においても支援要員として配置されている。

子どもが遊びの中で学びを進めていけるようゲームなどの教材を多様するため、

プレイリーダーが主に低学年の相手をする場面が多い。また、子どもが気持ちが乗らなくなった際などには、別室で違う活動をするといったように、状況に応じて子どもに寄り添った対応を行っている。



②子どもから出発するボトムアップ方式の学習機会

仕様書イ「フリースクール等に通所する個々の児童生徒の興味や状況に合った学びの場の選択肢を広げ、自立につながる支援」

算数、国語における教育実践の提案

算数個別最適化システム構築

実施日

9月2日、9月9日、9月13、9月25日、9月27日、9月30日、10月4日、10月7日、10月16日、10月21日、10月23日、10月25日、10月28日、11月1日、11月8日、11月15日、11月18日、11月25日、11月29日、12月2日、12月6日、12月13日、12月16日実施

実践報告

フリースクールにおける子ども達は、年齢もまちまちであり、算数の進度もまちまちである。算数・数学に強い苦手意識を持つ生徒も含まれている。また、算数・数学は少しの知識・スキルの違いで、同時授業が困難になり、複数生徒の同時授業は難しい。そのため、生徒たちの算数・数学を支援するために、当フリースクールでは、徹底した自由進度、個別最適化のシステムを開発している。算数・数学の時間はもうけるが、賞罰に訴えることはなく、評価も行わない。途中退出も可能である。進度調整は、スタッフとのコンサルティングによる。各自がコンピューターにインストールしてあるアプリおよびインターネット上のYouTube動画を進めるシステムを開発した。それによって個別最適化、自由進度を可能にした。

算数・数学の時間を週2回程度設けて、各自が取り組むこととした。やりたくな

いときにやらないことを認めている。一日にやる分量も、各自の自由であり、やめなくなったらやめることにしている。学習ポートフォリオは、各自の進度表を作成し、それに修了した日付を記入することによって作成している。評価は、それぞれの教材に解答がついているので、自分で照らし合わせている。わからないこと、疑問なことがあったら、講師に尋ねることができる。

【用意した教材】

1 小学校4, 5, 6年生程度

「目で見える算数」4, 5, 6年 + あかねこ計算ドリル4, 5, 6年

「目で見える算数」は教育出版が制作した DVD 教材である。ピタゴラスイッチの制作チームが作成し、子どもが興味を持つよう、工夫がこらされている。学校にしか販売されていないが、市の助成を受け出席認定されているフリースクールであるということで、販売してもらった。

「あかねこ計算ドリル」（光村図書）は、作り方が懇切丁寧であり、各種ドリルの中で、もっともひっかかりにくい。これも学校にしか販売していないものを、交渉して販売してもらった。

2 中学生程度

YouTube 動画「ある男が授業をしてみた」シリーズを PC で視聴できるようにした。定評のある中学程度の数学動画である。問題の選び方、解説において優れている。

3 小学校3年生程度まで 多種のゲームとパズルを用意し、自由に選択して遊ぶこととしている。

□ゲーム

ブラックジャック 10

おんぶすごろく

パズル

魔方陣

けいさんパズル（足し算）

けいさんパズル（かけ算）

和差算

「モンスターと計算バトル」テーブルトーク・ロールプレイングゲーム

□教具

重さあて

ネコバス、イヌバス（乗客の増減による足し算と引き算）

ピザで分数

駄菓子カードで買い物

プリント

「食べもので算数」かけ算九九

「面積」かけ算九九

和差算

【結果】

9月～12月に生徒たちに試してもらった。

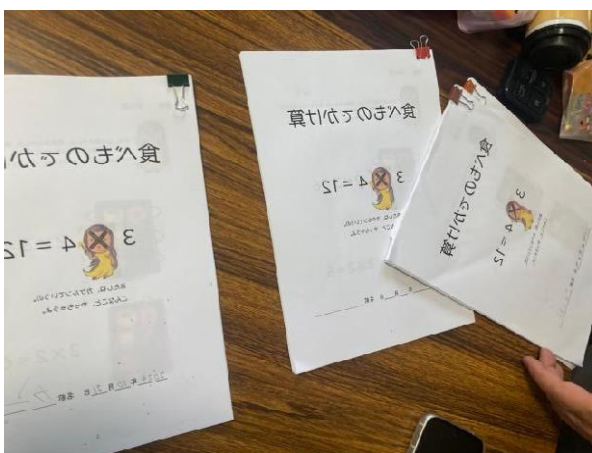
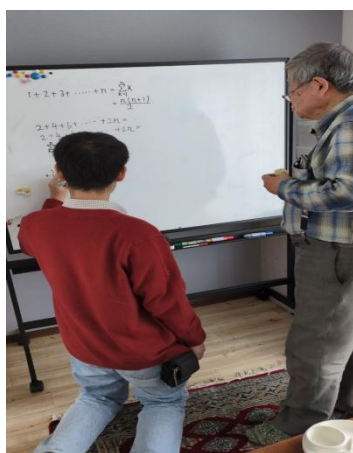
- 1 小学校4、5、6年生程度 「目で見える算数」＋「あかねこ計算ドリル」
4年生教材からはじめ、現在5年生教材の半ばくらいまで進んだ者 1名
すでに算数が進んでいるので、6年生教材から取り組んでいる者 1名
ガイダンスを受け、4年生教材に取り組んでいる者 2名
- 2 中学生程度 YouTube 動画「ある男が授業をしてみた」シリーズ
中学生1名が取り組み、文字式と方程式をこなせるようになった。
- 3 小学校低学年向けのパズル、ゲーム 6名
 - ・プリントや教材に自発的に取り組むことは稀であった。
 - ・スタッフから、「これをやろう」と割り当てれば、嫌がることはなかったし、よくこなした。
 - ・「モンスターと計算バトル」は、子どもが熱中した。加減算から割り算の初歩。現在、生徒とパズル、ゲームで遊べるスタッフを養成中である。



10:45～ インストラクション

今日誰が、どんなことを、どんな学習媒体を使って、どこでやるかといった説明を行い、その後子ども達は個別進度学習を行う。

個別進度学習の様子。動画視聴、動画×ドリル、プリント学習、アプリでの計算ゲーム、算数のボードゲーム・カードゲームなど。また、個別でのインストラクションを行うことがある。



□国語の授業実践について

9月9日実施

10:30～11:30（同時学習）

12:30～（個別学習）実施

以下、講師の指導案および記録の一部を抜粋、一部加筆修正（人名等）したものを報告とする。11月、12月の授業記録はスタッフが行っている。

国語実践の記録（記録の抜粋、人名等について一部加筆修正）

1 9月9日以降のクラスの持ち方と記録作成の仕方の変更

個人学習の記録に進む前に、今回以降のクラスの持ち方や記録作成の方法についての変更があったので、それを報告する。

2 クラスの持ち方の変更

従来はあいまいであったランチと休憩の時間を確保することにした。

具体的には下記の通り。

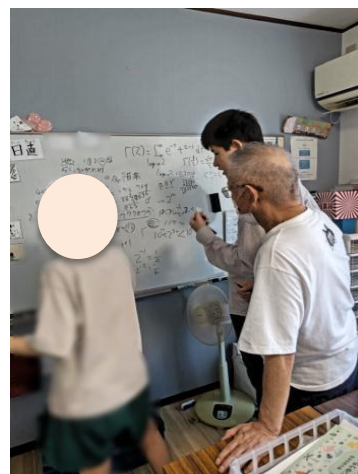
10:30～12:00 異年齢全員同時異学習（「全員学習」と略称）

12:00～13:00 ランチ、休憩

13:00～15:00 個別対話学習（「個別学習」と略称）

- ①個別対話学習はスタッフが予約を取って、順番を決めて行う。
 - ②個別学習の時間は、1人25分間を基本とし、長くても40分とする。
 - ③希望人数が多すぎて、15:00までの時間枠に収まらない人が出た場合は、次回に回ってもらう。
 - ④2階の学習室での個別学習が終わったラーナーが、階下に行って、終わったことを伝えて、次の順番の人が2階の学習室に行く。
- 3 ビデオ録画の分担
- ①午前中の記録はビデオ録画を含めスタッフが行う。
 - ②午後の個別対話学習は講師が行う。
- 4 9月9日当日の全員学習の進行計画（事前に講師が作成したもの）
9月9日の予定は次のようであった。
- A 前半（10:30-11:30ころ）
- （1）新しいラーナーがいる場合は、「COCOCARA国語クラス」のやり方を伝える。全員経験者の場合は、簡単に項目を伝えるだけにする。
 - ①25分ごとに5分休憩。
 - ②途中参加、途中退出OK。参加自由型の同時異学習。
 - ③学習室からの出入りはいつでも自由。
 - ④学習室や学習室にいたままほかのことをしてもよい。
 - ⑤講師の話を聞かなくてよい。
 - ⑥だれかが発言していても、聞くか聞かないかは自由。
 - ⑦ラーナーには、指名されてもパスする権利がある。
 - （2）講師からのクイズタイム（25分程度。時間が来たら途中でも終わる。）
クイズ：漢字クイズ：色の漢字クイズ
 - （3）ラーナーから講師にクイズを出して遊ぶ。（25分程度）
クイズを出すために、何を見てもよい。
 - ①『はじめてつかう漢字辞典』 ②ほかの辞書や参考書や図鑑など
 - ③スマホやパソコンなど。
 - （4）留学生との日本語での交流タイム（12:00になったら終了）
 - ①留学生に、質問・助言してもよい。情報を提供してもよい。
 - ②口で言ってもよいし、絵や字を書いてそれを見せてもよい。
 - ③スマホやパソコン画面で伝えてもよい。
 - ④質問の日本語を留学生が理解できない場合は、だれかが、スマホかパソコンを利用して英語かドイツ語に翻訳する。
 - ④留学生が自由に発言したり、質問したりしてよい。
- B 後半（12:15開始。2階の学習室で）
- 個別対話学習（学習者の疑問や質問や要望に講師が応じる。話題や分野は何でもよい。好きな趣味や分野の読み書きや漢字の相談、あるいは学習全般の相談に応じる。講師にクイズを出してもよい。クイズはどんな分野でもよい。言葉を使えばそれは国語の学びになるので、どんな分野の内容でもよい。
- 以上が計画であった。
- 5 進行の結果

- (1) 新しい参加者がいたので、国語の特色と進め方の説明を講師がした。
 - (2) 留学生が不参加だったので、留学生との交流は無くなった。
 - (3) クイズ遊びのうち講師からのクイズ遊びは、計画のうち①の内容をただけで終わった。
 - (4) 11:30頃までに、ラーナーによるクイズ出題が一巡して、ラーナーたちも満足した様子であり、かつ留学生不参加のために、予定時間よりも早かったが全員学習を終えて、ランチと休憩時間に入った。
 - (5) 全員学習を終える際に、12:30から午後の個別学習を開始することを伝えた。
- 6 個別学習（講師がビデオを撮影した。3脚を立て、ラーナー一人と講師の全景が移るようにして、固定撮影をした）』個別学習は予約制となっており、子ども自らの意思で予約を取る。実施した生徒は2名。
以上が9月9日実施の内容である。



2024年度 第5回目 11月18日(月)指導案（講師作成）

前半（10:30-11:30ころ）

1. 新しいラーナーがいる場合は、「COCOCARA国語クラス」のやり方を伝える。全員経験者の場合は、簡単に項目を伝えるだけにする。

- ①25分ごとに5分休憩。 ②途中参加、途中退出OK。参加自由型の同時異学習。
- ③学習室からの出入りいつでも自由。 ④学習室や学習室にいたままほかのことをしてもよい。 ⑤講師の話の聞かなくてよい。 ⑥だれかが発言していても、聞かなくてもよい。 ⑦パス権利あり。

2. 講師からのクイズタイム（25分程度。時間が来たら途中でも終わる。）

クイズ：筆順：標準的な筆順リレー遊びと筆順ルール発見遊び

【前提】『筆順指導の手びき』（1958年（昭和33年））「ここに取りあげなかった筆順についても、それを誤りとするものでもなく、また否定しようとするものでもない。」（同書p.7）

（1）筆順リレー遊び

一人一画ずつ書いて次の人にリレーする。（先頭ラーナーは講師が指名。そのあとは、ラーナー同士で指名する。パス有り。最終的には、全員が1回は出場するようにする）

①の筆順リレー。講師が黒板に黒で書いて、ラーナーが別の色で塗っていく。

一（書く方向は？）

二（書く順番は？）

三

②川 八 心

③小

④中

（2）筆順ルール法則発見遊び（先程、筆順リレーした漢字でルール見つけ）

①二 三 川 八 小 中

②必（可能性がある筆順を、できるだけたくさん見つける。みんなで見つける。
（一人ずつ指名して言ってもらおう。）

1）ソ 右はらいをはねて 点々（左右）：中から左右

2）左点 右はらいをはねて 中点 ノ 点（中国大陆）

3）心 ノ（台湾）

4）× 上点左右点（中から左右）

5）点々（中・左） ノ 点

6）上点 × 点々（左右）

7）ソ 左点 右はらいをはねて 点

③横画が先か後か

（1）十 力 世 木 土 田 大 幸 草 千 友 左

（2）右（布・有・希：中台では） 女 母

④右斜めに払う画は？

父 文 友

⑤真ん中にある縦画は先か後か

（1）小 水 当

（2）十 中 車

⑥時間が有れば、参加者の氏名で（講師が聞いて、本人に答えてえもらう）

3. 留学生と自由対話（25分程度）

ラーナーから留学生に日本語で質問し、留学生が答える。

順番は希望順。希望者がいない場合は、講師が（パス有り）で指名する。

留学生から質問がある場合は、自由にしてもらう。

4. ラーナーから講師にクイズを出して遊ぶ。（25分程度）

クイズを出すために、何を見てもよい。

①『はじめてつかう漢字字典』 ②ほかの辞書や参考書や図鑑など

③スマホやパソコンなど。

クイズ例1： 「収」「情」の第1画はどれ？

クイズ例2： 日本最速の列車は何？

クイズ例 3： 哺乳類最速の動物は？

クイズ例 4： 世界で一番面積が小さい国は？

B 後半（12：15開始。2階の学習室で）

個別対話学習（学習者の疑問や質問や要望に講師が応じる。話題や分野は何でもよい。好きな趣味や分野の読み書きや漢字の相談、あるいは学習全般の相談に応じる。講師にクイズを出してもよい。クイズはどんな分野でもよい。言葉を使えばそれは国語の学びになるので、どんな分野の内容でもよい。

以下、国語授業の記録を記す（スタッフによる記録）。

参加者：子ども9名（中学3年生男子2名、中学2年生女子1名、中学1年生女子1名、小学6年生女子1名、小学5年生男子1名、小学5年生女子1名、小学3年生男子1名、小学1年生男子1名）スタッフ7名、ドイツ人留学生1名（R君と表記する）、視察1名

A 前半の全員学習

10：40授業開始。

学習サポーターである先生が授業の進め方を説明した。今日初めて参加する人がいるから、その人をメインにする。25分間授業を行い、5分間休憩を繰り返す。タイムキーパーはスタッフにお願いする。好きな時に部屋を出入りしてよい。先生に質問されてもパスして発言しなくてもよい。他の人が話しているときに発言してもよいし好きなことをしてもよい。

先生「今日は何をするかと言うとね、漢字の書き順、筆順遊びです。R（留学生）君、わかる？」

R（留学生）君「わからない、漢字はちょっと書ける」との答え。

「君はドイツ人、21歳だよ、イケメン。」と先生が皆に紹介。R（留学生）君に、漢字を書くことがあるかと尋ねると、「今日」とか「明日」と書くことがあるとのこと。もっと易しい一文字でいいから、簡単な漢字をホワイトボードに書いてとお願いし、R（留学生）君がホワイトボードに「日」を書く。Your styleと先生に言われ、R（留学生）君は左から右に向かって一周する四角形を書いて最後に真ん中の横棒を左から右に書く筆順で書く。先生「ダンケシェン。英語で言うと day ね。sun、お日様ね。ドイツ語で sonne（ゾネ）ね。」と言いながら、ホワイトボードに「日」を書く。「2ストロークで書けるね。正しい書き方はないの。法律で決まってないの。でもこう書くと、小学校で×にされるのね。昔は「日」なんかこう書いてたんだからどう書いてもいいの。」と言いながら、円と、その中心に点を書いた古代文字をホワイトボードに書く。「本来は、右利き左利きでも書きやすい筆順が違う。これがだんだん四角くなって、筆で書くようになって、だんだん筆順はできてきた。転校してきた子が前の学校の筆順で書いたら×にされたりしたの。文部省がいろんな先生に頼んでも決まらず、妥協の産物で、今から半世紀前に国が標準を示したの。R（留学生）君、わかる？意味」とR（留学生）君に確認。で、一応決まって『筆順指導の手びき』（昭和33

年) という薄い本が出た。この本にも、これ以外でもまちがいではありませんと書いてあるのに、テストでは×になるようになった。誰が×をするかというテストを作る人。特に1、2年生の先生が厳しい。でも、その筆順で書くとけっこう書きやすくて、形も整いやすい。R (留学生) 君もやってみると、けっこう書きやすいのよ。」

先生「僕しょっちゅう Facebook みてるのよ。scalar of insect」と、H君を紹介。H君に「右」をホワイトボードに書いてみてとお願いした。

「左」と「右」はエとロが違うだけなのだが一画目が違う(右はノから、左は横棒から) という話からエロの話になり、「エロスは愛。」と先生が話し始めると、Cくんが「今日はお客さんがいるので…」とたしなめる。

先生「台湾でも書き方は決まっていらないのに、日本ではこんなに決まっている。筆順なんてどう書いたっていいんだ。でもテストでは×されるし、それに書きやすいんだ。」

先生はホワイトボードに「三」と「四」を書き、横棒を右から左に書いて見せたりした。

B君がホワイトボードに四を書く。

先生「H君の漢字の筆順をやるよ。」H君が前に出て、ホワイトボードに苗字を書く。

先生「H君は極めて自由に書いたんだよ。自由は楽しいんだよ。これは〇〇(苗字のため記号にて表記)とも読めるんだよ。」「文部省が示したのをやってみるね。嫌だけど知ってた方が得なんだよね。」

先生、H君の苗字の漢字ふたつの筆順を板書する。

「田」は三画目が縦。

B君に、ホワイトボードに「田」を書いてもらう。B君は、四角を書いてから十字を書いた。

先生「文部省の書き方やってみるね。「田」の中の十を書くとき、縦の方が先。

「十」を書くときは横が一画目なのに、田んぼのときの十は違う。嫌なんだよ、腹立つんだけど、一応標準があって。僕も辞書に書いてまして。だから筆順に決まりがあるのを今日はみんなに発見してもらいたいんだよ。」

先生がB君の名前を板書し、名前の漢字を説明する。

「右から書くと思う?左から書くと思う?」Fちゃんが「左から」と答える。

次にEちゃんに、さんずいを示しながら「この三つの点、どこから書く?」

Eちゃん「下から書く。」と答える。ここで25分タイマーが鳴るが、続ける。

先生「Eちゃんの漢字は、にすいだよね。Eちゃん書いてみて。にすいは上から書くよね。さんずいも上から書くんだよね。まず左が先。上から書く。」

「次、Dちゃんね。「洗」の光はどこから書く?」

Dちゃん、斜めの点から書き始める。

先生「これは真ん中の縦棒から。じゃあDちゃんの次はR (留学生) 君。光の横棒はfrom left? from right?」

R (留学生) 君「右からかな?」

先生「from left.」次にGちゃんを指名すると、Gちゃん「パスで。」

先生「パスの権限を行使するのは素晴らしいことなんだよ。」
次にA君を指名して「光の下の一画は？」A君「左からかな？」
先生「土はねえ。どうする？」と言いながら書く。
「武士の土、（辞書で）ひいて。」
先生の漢字字典をみんなに配りひいてもらう。256ページ、とDちゃん。
先生「あ、横からだなあ。」

11:12 5分間休憩に入る。
休憩中、先生がR（留学生）君に説明しに行く。先生「わかった？」R（留学生）君「ちょっと。」「筆順ソフトルール。めいめいにソフトルールがあるんだよ。」
スタッフと子ども達数名はトランプを始める。大人たちで筆順の話。そこで虫の話をするため、H君を呼ぶ。ポーカーが始まりかけるが時間なのでストップ。I君は授業に入ってこず、Eちゃんも別室へ。ひとりのスタッフは別室の子ども達に付き添う。もうひとりのスタッフも途中から別室に付き添う。別室ではオセロやインスタントピタゴラスイッチ、レジンなどをして過ごしていた。
スタッフが板書しながら、「虹」という漢字の成り立ちを説明。
しーちゃんが「虫」は蛇の形からできたこと、工は天と地を表すことなどを補足説明。

11:25 授業再開。
先生「ここからは、R（留学生）君とのフリーディスカッション。」
R（留学生）君「オーマイガッ」
先生「誰からでもいいからね。誰を司会にしようか。Gちゃん。」
Gちゃん「え？なんで？あー。Fちゃんです。」
Fちゃん「ペットを飼っていますか？」先生がその質問を英語に翻訳。
R（留学生）君「犬」
「どんな感じの犬？Don't you know kind of pet?」
「あ、（その犬は）ドイツにいるそうです。」
C君「学生時代に好きだった教科は？」
先生が、その質問を英語に翻訳。
R（留学生）君「スポーツとバイオロジー。」
先生「スポーツをドイツ語でなんと言うかな？」
R（留学生）君「スポーツ。」
Dちゃん「好きな色は？」
R（留学生）君「赤。」
先生「red。赤だそうです。」
スタッフ「夢はありますか？」
R（留学生）君「あります。」
スタッフ「どんな？」
R（留学生）君「たくさん旅行したい。」

(いつからか、Gちゃんが質問者を指名している。H君、弁当を持ってきてここで食べ始める。)

先生「(R君は) 前より日本語が上手になっているね。」

スタッフ「好きな季節は？」

先生が質問を翻訳。

R (留学生) 君「春」

Dちゃん「アレルギーはありますか？」

R (留学生) 君「ない。」

B君「考えてない。」

先生「I don' t think anything.」

A君「好きなスポーツはなんですか？」

R (留学生) 君「バレー。」

A君「好きなサッカーチームは？ドイツね。」

R (留学生) 君「ドルトムント。」

R (留学生) 君、ドイツの地図を板書してドルトムントの場所を示した。

C君「ドルトムント工科大学がある。そこには懸垂式のモノレールがある。」

先生「他に質問がなければ from you. R君から質問してもらおうようにしよう。」

(R (留学生) 君がこの後なんと質問したか聞きとれず)

Fちゃん「漆っていう漢字が好きです。」

それを受け、先生が補助しながら、R (留学生) 君はホワイトボードに「愛」という漢字を書いた。

R (留学生) 君「好きな動物は？」

Gちゃん「レッサーパンダと目がでかい猿が好き。」

スタッフが差し出した携帯電話を見ながら「そう、メガネザル。これこれ。しつぽがはえてるやつ。」

Dちゃん「最近『進撃の巨人』が好きです。」

C君「『進撃の巨人』は現地(ドイツ)でも有名なの。」

R (留学生) 君、C君に「趣味はなんですか？」

C君「コンピューターが好きです。趣味としても実務としても。この仕事の特徴の一つが、オンオフがないところですね。」

先生「彼は中3です。」

R (留学生) 君、みんなに「クリスマスは好きですか？クリスマスマーケットはどうですか？」

先生、R (留学生) 君に「ドイツのクリスマスマーケット、みんなに説明して。」

R (留学生) 君「I can' t explain.」

先生が代わりに説明。インターネットでドイツのクリスマスマーケットと検索すると、たくさん出てくる。ドイツでは、クリスマスマーケットは大変人気があり、国中で開かれる。R (留学生) 君「Every city has Christmas market.」

C君「ケルンには行ったことがあるんですけどね。親父が wespe (蜂) に刺されました。ケルンは日本で言うと京都みたいかも。」

R（留学生）君「ケルンのクリスマスマーケットは多分最大。大きな町には全部あり、田舎にはあんまりない。」

11:50

先生「時間になりました。ありがとうございました。」

午後からの先生との個別授業は、13時からDちゃん、13:30からFちゃんとなった。



2024年12月9日(月)指導案（講師作成）

「筆順、ふしぎ発見！」—標準的な筆順とそれ以外の書きやすそうな筆順を探し、人間にとって書きやすい筆順のルールを発見する遊び。筆順を教えて覚えたかどうかをテストする方向とは逆。

A 前半（10:30-12:00ころ）

1. 新しいラーナーがいる場合は、「COCOCARA国語クラス」のやり方を伝える。

①25分ごとに5分休憩。 ②途中参加、途中退出OK。 ④ほかの人の邪魔をしない限り何でも自由。④パス権利。

2. 「筆順ふしぎ発見！」遊びを25分を2回して終わる

筆順は怖くない。例外だらけの法則見つけ。筆順に正誤はないが、便利な標準的な筆順が有る。今回はその不思議を発見する。AとBを比べて、法則を発見する。

【クイズ1】

(A) 一 (1画) 二 (2画) 三 (3画)

(B) 川 (1画) 八 (2画) 心 (4画)

【クイズ2】口 日 目 をパーツに分けて、どの法則が適用されているかを見つける。

【クイズ3】小 中 十 直

【クイズ4】次の漢字で、画数と順番ルール見つけ

力 世 木 土 大 幸 草 千 友 左 女 母 父 文 友 水 当 覚
車

【クイズ5】「馬」の可能性のある筆順を見つける。

①縦横縦 ②縦横横横縦 ③横縦横横 ④横縦縦横横 ⑤その他

3. ラーナー全員の名前の筆順を見つける（25分程度）

B 午後は、個別対話学習（昼食後開始。2階の学習室で。今日は2時まで、希望順）

学習者の疑問や質問や要望に講師が応じる。話題や分野は何でもよい。好きな趣味や分野の読み書きや漢字の相談、あるいは学習全般の相談に応じる。学習だけでなく、人生のことなどについても語り合う。講師にクイズを出してもよい。クイズはどんな分野でもよい。言葉を使えばそれは国語の学びになるので、どんな分野の内容でもよい。

以下、国語授業の記録（スタッフによる記録）

参加者：子ども9名（中学3年生男子2名、中学2年生女子1名、中学1年生女子1名、小学6年生女子1名、小学5年生男子1名、小学5年生女子1名、小学3年生男子1名、小学1年生男子1名）スタッフ4名

前半の全員学習

10：35授業開始。

「今日は筆順不思議発見をします。前回の続き。」先生が簡単に今日の授業の説明をした。「一、二、三、（この3つは上の段に書いた）川、八、心（この3つは下の段に書いた）」と板書。本来は筆順に決まりはないが、この6つの中で筆順のルールをみつけてほしい。A君、パスしてもいいから、どうかな？とA君を指名した。上の段の漢字3つと、下の段の漢字3つで筆順の法則がある、と少しヒントを出した。

B君「左から書く。」

A君「上から下。」

そこで先生が「上の3つは上のパーツから先に書く。下の3つは左から右に書く」と解説をした。先生「えー『心』は？書いてみて。学校では、こう書くって先生が縛られてるけど、生徒は自由なの。」

次に先生が「口 日 目」と板書した。「これはくち、これはお日様のひ、ね。」と説明しながら。

「C君、これはどういう法則かみつかりますか？」

C君「かぶせるものがある時は、縦が先。」と答える。

その答えは初めてだ、と先生が驚く。Dちゃん、Eちゃんにも指名。ルールは、左からか上からしかないと先生。

次に先生が「小 中 十」と板書した。

「Fちゃん、いる？」小を指しながら「この字をパーツに分けると、三つだね。どこから書く？真ん中からだね。真ん中の縦棒が字の中で一番上になるから、真ん中から先なんだね。」

「次、Gちゃん。（中、を指して）いくつのパーツに分けられる？」「左からなんだよね。漢字字典見てみて。27ページ見てみて。」（先生も子どもたちと字典をみながら、ページをみつけた。）

「次はね、H君。十は、どっちから先？左から右だね。でも、縦から書いても間違いじゃないからね。」

次に先生が「これこれ」と「直」を板書した。

「Dちゃん。パーツいくつある？さっきの十と同じだから、（十、を板書しながら）十と同じなの。」

漢字字典の部首索引で十をひいてもらうように呼び掛ける。

「88ページだそうです。」と先生。

さきほどC君が見つけた、縦棒を書いた後に被せるものを書くのが先、の法則がまた出てきて、先生が再び「すごいよこれ、誰も言っていないことだよ。」と驚く。

「僕が本当は言いたかったのは、何通り書き方があるかだけど、それやると時間がかかるから。」

「あと25秒。」

とタイムキーパーのスタッフが時間をお知らせした。（ポモドーロテクニックで、25分たったなら5分休憩のため。これは子どもから提案されたルール）

この解説の間、I君はスタッフの膝に乗せてもらって、絵本『ミッケ！』を読んでもらいながら同席していた。Eちゃんはスタッフとボードゲームを触りながら同席していた。

5分間休憩。

11：00授業再開。

「再開しまーす。」と先生が声をかけ、「馬」を板書した。

どこから書き始めるか、A君を指名した。

A君「パスで。」

Dちゃんが指名され、一番上の横棒から書くと答えた。

先生の「自分だったらどこから書く？」の問いかけに、C君はDちゃんと同じと答え、Fちゃんも「私も同じ。」と答えた。

スタッフは、縦棒からかなと答えた。スタッフの名前に含まれる駿は「駿馬」の駿ということからしーちゃんが「駿馬」と板書して、足の速い馬などと解説した。I君に、板書の「馬」を示しながら「この字見たことある？」

I君「ない。うんち。」

先生「あ、『う』は合ってるよ。うのつく動物。うしじゃないんだよ。」

I君「うま！」

C君「U+99AC。ユニコード。」C君が馬のユニコードを教えてくれた。

先生「へー。」

このとき、A君、Fちゃん、Dちゃん、I君は、カードゲームのウノをしながら授業に参加していた。Eちゃんは、休憩後は別室へ。スタッフが付き添っていた。

先生「B君、馬、どこから書くと思う？」

B君「縦棒から」と答える。

先生「馬を漢字字典で引いてください。104ページだけど、どうですか？」

C君「縦からだった。」

先生「馬はいろんな筆順があることで有名な字なんだよ。ネットの漢字ラボでこのことを書きました。これはたてがみ、これは長い首。漢字字典見てみて。」と、確認してもらう。

Fちゃん「じゃあ、馬って象形文字？」

先生「そうなんだよ。象形文字の『象』（しょう）も動物なんだよ。ぞうけい、とは読まないのね。象も象形文字です。」

ここで先生があと何分か確認し、スタッフが「あと12分です。」と答えた。

先生「この後はみんなの苗字ね。A君から行こう。□□（苗字）の□はどう書いてる？上が短い？□は2つあるんだよ。」

先生「じゃあ、H君。」H君を指名して、氏名を板書してもらう。

先生 苗字の一部を板書。Dちゃんに筆順を言ってもらい、H君が板書した漢字に筆順の数字を書き入れていった。先生がH君を呼ぶも、H君は退室中。帰ってきたので漢字を板書してもらった。

H君は、かぶせるところを先に書き、次にはらい、次に口の下横棒、最後に一番上の一を書いた。C君が辞書の「76ページにあるよ。」と教えてくれて字典を確認。

先生が、字典の筆順で漢字を板書した。「Dちゃんが最初にした書き方だね。」と先生。この話題に参加しているのは、この時点でC君、Dちゃん。H君は同じ机上でお弁当を食べ始めた。I君とスタッフは、同じ室内で「東大脳ブロック10（テン）」というゲームをしている。

「スタッフさん、あと何分？」「あと1分。」「じゃあ終わろ。」11:25から5分間休憩となった。

授業再開。

先生がスタッフに、誰か選んで質問してもらうようにお願いし、スタッフがC君に「C君とか今どう？」とたずねた。C君「今パス。」

スタッフがI君と話し、I君に代わって先生に「クレヨンしんちゃんご存じですか？」と質問した。続いてI君が、「なんでクレヨンがつくと思う？」と自ら質問した。

先生「なんでもかんでもクレヨンで言うから。クレヨンで絵をかくのが好きだから」

I君「ヒントは車。」

先生「ガソリンで動く車？すごい難しい。」

Fちゃん「クレヨンが幼稚園ばいから、クレヨンってつけてる。」

Dちゃん「作者がクレヨンで『クレヨンしんちゃん』をかいたから。」

Gちゃん「知らない。」

先生「作者がクレヨンで絵をかいたから？もうちょっとヒントない？」

I君「ヒント。ひまわり。（しんちゃんの妹の名前）」

先生「お父さんの名前は？ひろし。関係ないね。答えの一番最初の文字は？」

B君「ひまわりが車に轢かれて死にそうになったのを、しんちゃんが代わりに助けて死んで…云々（聞き取れず。調べたところ、しんちゃんが交通事故で妹の身代わりに亡くなったため、母親のみさえが心を病んで、しんちゃんの遺品のクレヨンでこの物語を書いたので『クレヨンしんちゃん』というタイトルである、という都市伝説があるそうです。）

I君が次の質問をした。「きさらぎ駅には、何人行ったことがある？ヒントは「さ」から。」

先生「次は誰？Dちゃん？」

Dちゃん「希の書き順は？」

先生「希」を板書して、参加者と話しながら書き順の数字を書き入れていった。漢字字典を3人（先生、スタッフ、Dちゃん）で調べた。「布」の書き順も調べて、「布」も「希」も、布の払いは横棒より先だと分かった。

残り11分。

C君が、コピー用紙に書いた問題を先生に渡した。先生がそれを板書した。

「 $y=x^2+7x-8$ $y=2x+8$ の交点」

先生が関数のグラフを板書し、C君と話しながら答えのイメージを書いていった。

先生「何年生くらいの問題かな。」C君「高校生くらいでしょう。」

H君「名誉教授になるにはどうすればいいの？」先生が説明をする。

H君「先生は結婚してるの？」

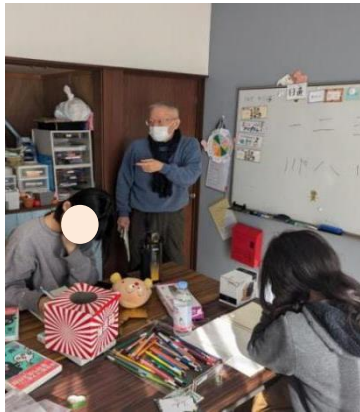
先生「2回した！最初に結婚したのはいつだと思う？23歳。」などと説明。

先生は中国で生まれて、引き上げ船で帰ってきた。大分の田舎で虫がたくさんいた。

とんぼは10種類くらいいた。毛虫がいた。H君はそれがどんな毛虫だったか興味を持って携帯で検索し、これではないかと、先生と詳しく話し合った。

時間となり、終了した。

午後からの個別授業は、食べた人から、時間は14時までとなった。希望者はDちゃんとなり、その後声掛けをしたところ、C君、H君となった。



(3) 不登校児童生徒の教育ニーズとフリースクール等の現状に関する課題

【支援ニーズ調査概要】

12月16日 10:30～10:55

出席している児童生徒に対し、朝のサークルの中で、アンケート内容についての発言を聞く機会を設けた。児童生徒全員にアンケートの項目が記載されている用紙を配り、それを見てもらいながら、ファシリテーターがひとつひとつの質問項目をホワイトボードに書いて読み上げ、みんなから意見をあげてもらいたい旨説明した。また、用紙に書くことができる子については、内容を書き加えて提出してもらおうよう依頼した。以下、指定項目4問、追加項目2問に対する児童生徒の回答を記す。なお、後に回収したアンケート用紙で得た回答は（以下、アンケート用紙から）と表記してある。参加した児童生徒数は9名。学年と性別の内訳は以下のとおりである。

小学校1年生男子、小学校3年生男子、小学校5年生男子、小学校5年生女子 小学校6年生女子、中学校1年生女子、中学校1年生男子、中学校3年生男子 中学校3年生男子

指定項目

(1) フリースクール等に通所したことによる変化はあるか？

聞かれて即座に「ない」と答えた児童生徒が3名（中学校3年生男子、小学校1年生男子、中学校1年生女子）

小学校5年生女子 「下ネタが増えた。」一同笑う。

小学校5年生女子 「学校より素の自分が出せるようになった。」

中学校1年生女子「大暴れする」

→ファシリテーター「それは具体的にはどういうこと？」

「お口が止まらない」（おしゃべりが多いという意味）

小学校3年生男子「ゲームができる相手ができた。」

（以下、アンケート用紙から）

小学校6年生女子「自分の得意なことや好きなことができるようになった。」

「いろんなことにチャレンジできるようになった。」

(2) フリースクール等に望むことはあるか？

中学校 1 年生男子「お金」「予算」
小学校 6 年生女子「学習環境が欲しい」「パソコンとか」
→その他数名が「パソコン」「タブレット」などと続けて発言する。
小学校 6 年生女子「給食が欲しい」
中学校 1 年生女子「給食が欲しい」
小学校 5 年生女子「ピアノが欲しい」
小学校 3 年生男子、5 年生女子「プールが欲しい」
中学校 1 年生女子「本」「図書館が欲しい」
小学校 1 年生男子「バス」（スクールバス？）「そう、スクールバス。そしたら、お母さんも…（聞き取れず）」
（以下、アンケート用紙から）
小学校 6 年生女子「学習環境を整えて欲しい！」

（3）進路の希望について教えてください。
複数の子どもから「これってどういうことを答えるの？」「学校ってこと？」「将来の夢ってこと？」といった質問が上がった。小学校 1 年生男子は、意味がわからないといったように首をかしげる。ファシリテーターからは、どういったことを聞かれているか指定されていないのでわからないが、学校でもなりたいものでも進路だと思うものがあれば話して欲しいといった旨の説明をつけ加える。

小学校 3 年生男子「E-SPORTS の専門学校」
小学校 5 年生女子「獣医。ずっと獣医」
中学校 1 年生男子「工業系…とか？工業系の学校」
「わからない」と答える生徒が数名いた。また、みんなの前では言いたくないという子どもが数名いた。
（以下、アンケート用紙から）
小学校 6 年生女子
「合格した私立中学校に楽しく通いたい。大学で教育系の学部に入りたい。」

（4）今後についての不安や悩み事
小学校 5 年生女子 「勉強のこと」
小学校 6 年生女子、中学校 1 年生女子も同様に「勉強」と答える。
この後、他の子ども達が一時沈黙する。
ファシリテーターが他にあるか尋ねるが、他に答える子どもはいなかった。
（以下、アンケート用紙から）
「中学校で、学校環境になじめるか、勉強についていけるか。」

追加項目

（5）学校に望むこと
小学校 5 年生女子 「自由時間！」
「教科書をおもしろく、わかりやすくしてほしい」
「先生たちの気持ちを变えて欲しい。学校に行かなきゃって

いうのを変えて」「生徒の気持ちも変えて欲しい」
小学校6年生女子 「ガタガタな机（やめてほしい）」

（6）学校がどうなったら行きたいか？

小学校6年生女子 「トラブルがない」「トラブルの対応を丁寧にして」
小学校1年生男子 「勉強なし！」
小学校3年生男子 「ゲームができる」
小学校5年生女子 「（5）の条件を満たしたら」
「学校の先生が優しくかったら」
小学校1年生男子 「（先生が）すぐ怒る」
小学校5年生女子 「（先生が）すぐ怒るのをやめて欲しい」
「無理に連れていこうとする」

以上が、子ども達の発言である。

当フリースクールに通う子ども達の多くが、5年前の開所当初から在籍する子ども達であり、そうした子ども達にとって今の生活はいわゆる日常である。アンケートを取る際に、子ども達からあがったのは「学校」と聞いて、「学校ってこのこと？」「学校ってどの学校？」といった反応である。教育機会確保法が施行されてもなお、こうした子ども達にとっては、この生活が日常であるにもかかわらず、時として、そして何年にもわたって絶えず「学校」と「学校外」を認識させられる状況に置かれる。それは子ども達の多くに、学校に行っていないことが普通とは違うという意識づけを余儀なくさせ、フリースクールなどの場でいかに自尊心を取り戻し、そこで自分らしく仲間関係を育み、自分なりのペースで学習していたとしても、長い期間に渡ってどこかで後ろめたさや不全感を抱かせる状況を生み出してしまう。

当フリースクールでは、学習については無理強いをしないことを約束し、やりたかったらやっいていいよ、やりたくなかったらやめていいよ、困ったら頼っていいよ、学習は苦しめるものでも不安になるものでもないよということを子ども達に根気強く伝え続けている。子ども達は強制ではなく学びの主体として尊重され、学習に取り組む権利をもつと考えているのだということを子ども達に折に触れて伝えている。そうであってもなお、子ども達が漠然とした学習に対する不安を抱えていること、学習というプレッシャーが絶えず頭の片隅にあることが、“不安なことは「勉強」”と答えた子ども達の姿から浮彫りになっている。

また、フリースクールに通うことは、公立学校であればかかることのないお金がかかっており、それは安価ではないことを多くの子ども達が知っている。財政的な理由から満足な開催回数の確保や学習的環境が整備しにくいといった社会的事情をも子ども達は知っている。「予算」や「お金」といった子ども達の回答には、そうした所属する団体の運営が厳しい現状のみならず、自分のためにやむなし親に多大な支出をさせてしまっているという罪悪感をさえ抱いている子どもがいるのではないかとということが容易に想像される。そうであるならば、本当の意味でその子どもが自己を肯定し、心身ともに健やかに育つためには、財政事情や社会的事情を子どもが憂慮することなく、安心して育ちと学びが保障される社会

が必要であるといえるだろう。

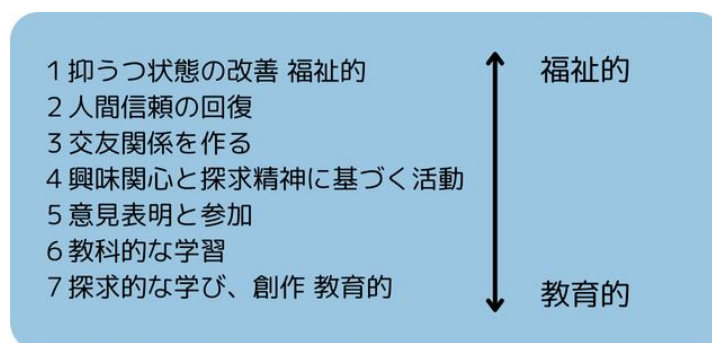
最後に、学校についての質問を追加項目として、子ども達に尋ねた。子ども達にとって「魅力ある学校」がどういったものであるのかについて、子どものリアルな声が明らかにしている。“学校に行かなければならないという先生たちの気持ちを変えて欲しい”という願いは、子ども達からの切なるメッセージである。

【現状に関する課題の分析】

フリースクール等の現状に関する課題

課題 1

フリースクールは、二級学習機関と見なされがちである。しかし実際は福祉と教育がブレンドされた、独自性の強い機関である。公的支援を得るにあたって、現在用意されている枠組みは教育機関（学校）と福祉機関（例えば放課後等デイサービスなど）としかない。そのため、予算獲得、業績評価などにおいて制約が多い。フリースクールは、福祉と教育の両面を含んだ、ウェルビーイング増進のための機関と考えることができる。フリースクールの独自性を認めた公的支援が望まれる。フリースクールの果たしている役割を図式化すれば、以下のようになる。



このうち、1抑うつ状態の改善、2人間信頼の回復、に関して、通常は医療的なアプローチがなされている。しかし、医療的なアプローチは対症療法的であり、効果が限定的である。福祉的なアプローチをとれば、交友関係を発生させ、本人の興味関心と探求精神に基づく活動を保障できる。それは人間関係のあり方と活動の仕方に根本から働きかける。そして生徒の社会的自立のための基盤を作ることができる。フリースクールは、子どもに強制しないことを生命線としている。そのため、学校と同様の学力を一律に達成することは困難である。しかし、勉強を強制しないため、子どもの自発的な学びを引き出すことは、容易である。特に、探求的な学びと創作活動を可能にすることでは、学校を超えた教育機能を持っている。

課題 2 スタッフの確保

フリースクールにおけるスタッフの確保は、困難な課題である。子どもがよくなつき、遊びにおいても学習においても、強制なしに子どもの活動を支援できる人材は、あまり多くない。そのような人材がいたとして、ボランティアワークをお願いするしかないのが現状である。ボランティアワークでは、本業に優先して時

間を割いてもらうことはできない。また、プロとしての知識・スキルの向上を求めることができない。スタッフとして給与を払い、生活を安定させるだけ給与を払えなければ、職種が成立しない。スタッフが研修、交流、視察等に時間と労力を掛けることは重要だが、その経済的保障をすることも現状では困難である。

課題3 外部講師の確保

優れた外部講師を招くことは、子どもの学習のためにも、スタッフの資質向上のためにも欠かせないが、その経済的余裕がフリースクールにはない。

課題4 施設・備品の整備

フリースクールが最低限果たすべき役割は、子どもに対して安心できる人間関係を提供することである。そのため、フリースクールの最低限の施設要件というものはなく、公園の片隅でも、公民館を借りた一室でもできる。しかしながら、子どもの活動の質を保証しようとするなら、整った施設は、どうしても必要である。十分に身体を動かせる屋外空間、叫び声をあげても近所迷惑にならない環境、動物・植物と接することのできる自然環境、全体集会が開けるだけの広い室内空間、スタッフの事務作業ができる一室などを占有空間として確保しなければならない。備品に関しても、遊具、実験器具、手芸・工作道具、IT 機器、コンピューターアプリ、書籍など、必要なものは枚挙にいとまない。

課題5 交通手段の確保

フリースクールは、広域から生徒を集めるため、交通手段の確保は重要な問題である。広くて恵まれた環境を手に入れようとすれば交通の便の良くない所に拠点を求めるしかなく、スタッフ及び保護者の自家用車に頼っているのが現状である。

課題6 経済的困難

以上のような課題をクリアーして、フリースクールの充実を図るには十分な資金が必要である。しかし、フリースクールの財政は、保護者が負担する参加費によって成り立っている。各種の民間助成金は存在しているが、恒常的な収入源とはならない。保護者の経済状態はいろいろであり、保護者の負担によって、フリースクールの経済的困難を解決することは不可能である。なんらかの公的経済支援がなければ、フリースクールの質を保証することはできない。

(4) 「不登校児童生徒の保護者のニーズに関する調査と課題の分析」

【支援ニーズ調査概要】

Google フォームにてアンケートの作成を行い、教育委員会に提出した。

9月13日 千葉県教育委員会より実施可との返答をいただいた。

9月17日 在籍生徒の全家庭にアンケートを実施

9月30日 アンケート締め切り

アンケートの詳細

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdymr16JzHfpaD0gtpczY5Mztna14smxpECDexW6nkmnVfIkA/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>

アンケートの全結果については別紙参照。

在籍する子どものうち、主に通学している子どもの保護者15名から回答を得た。質問項目は全22問であるが、記名式アンケートとしたため、1問目の氏名については省いて掲載する。

①「お子さんがお住まいの地域を教えてください。」

当フリースクールでは、千葉市内が約6割を占めている。千葉市外からは、市原市、佐倉市、茂原市から通学している。

②「お子さんの学年を教えてください。」

当フリースクールでは、小学校1年生～中学校3年生までが在籍しており、学年はばらけている。小学校5年生がやや多い。

③「お子さんの性別について教えてください。」

当フリースクールでは、男女比はほぼ半々である。

④「当フリースクールに通い始めてからどのくらいになりますか。」

全体の2割が5年以上、3割が4～5年未満と長期間通学している子どもが全体の半数に及ぶ。

⑤「お子さんは不登校を経験しましたか。」

100%が不登校を経験している。

⑥「お子さんはいつ頃から学校に行かなくなりましたか。」

当フリースクールでは、小学校1年生からが全体の5割を超える。また、小学校2年生からが13.3%、小学校3年生からが13.3%と低学年の子どもが全体の8割を占めている。

⑦「学校に行っていない期間はどのくらいですか。」

5年以上と長期にわたる子どもが全体の4割となっている。行ったり行かなかったりしている子どもが2割程となっている。

⑧「お子さんは、当フリースクール以外にどのようなところを利用していますか（複数回答可）。」

最も多かったのは「習い事」であり、全体の約50%に及んでいる、これは文科省の調査と合致する結果である。次いで、「他のフリースクール」、「居場所などを含む民間支援団体」が3割近い結果となっている。放課後登校といった学校とのつながりをもつ子どもは約2割であり、教育センターといった公的支援機関につながる子どもは約1割程度となっている。

⑨「お子さんの学習環境について教えてください。」

「フリースクールで学習している」と回答したのが全体の約7割となっている。次いで「家で勉強している」という子どもの割合は4割となっており、「教科書のようなものはしていない」という回答については4割を占めている。

⑩「当フリースクールへの通学方法について教えてください（複数回答可）」

車での送迎が約9割を占めている。学舎がある多部田町は近くに駅がなく、公共交通機関も少ない。そのため、ほとんどの子ども達が保護者の車での送迎に通学を頼っている現状がある。子どもによっては、徒歩、電車、車（スタッフの送迎）で通学している。

⑪「どのくらいの時間をかけて通学していますか。」

「車で1時間以内」と回答した人数は6名と最も多かった。往復の時間で考えると、送迎に多大な時間を取られるケースが少なくないことがわかる。

⑫「当フリースクールをどのくらいの頻度で利用していますか。」

開催日はすべて利用している子どもは全体の3分の1となっている。

⑬「当フリースクールに通いはじめてからのお子さんの変化について教えてください。」

主な変化の傾向としては、全体的にポジティブな変化が多い。特に「精神面」と「対人面」での改善が顕著で、多くの保護者が子どものポジティブな変化を感じている。次に、各項目別の詳細についてまとめる。

『体調面（不調の訴えなど）』

- 1 「とてもよくなった」：8人（53.3%）
子どもの健康面での改善を感じた回答者が半数以上。
- 2 「少しよくなった」：2人（13.3%）
少数ながら改善を感じる声も。
- 3 「変わらない」：5人（33.3%）
約1/3の回答者は体調面での変化がないと回答。

『精神面（気分や意欲）』

- 1 「とてもよくなった」：12人（80.0%）
気分や意欲面での改善が最も高い評価を受けた。
- 2 「少しよくなった」：1人（6.7%）
わずかながらの改善を感じた回答者もいる。
- 3 「変わらない」：2人（13.3%）
変化を感じられないという声は少ない。

『生活面（生活リズムなど）』

- 1 「とてもよくなった」：2人（13.3%）
生活リズムの大幅な改善を感じた回答者は少数。

- 2 「少しよくなった」：6人（40.0%）
一部の改善を感じる回答者が比較的多い。
- 3 「変わらない」：7人（46.7%）
約半数の回答者は生活面の変化を実感していない。

『行動面』

- 1 「とてもよくなった」：6人（40.0%）
子どもの行動に明らかなポジティブな変化を感じる回答者が多い。
- 2 「少しよくなった」：6人（40.0%）
行動面での小さな改善を感じた回答者が同程度。
- 3 「変わらない」：3人（20.0%）
行動面で変化がないと答えた回答者は少ない。

『対人面』

- 1 「とてもよくなった」：9人（60.0%）
対人関係の改善が見られ、半数以上が大きな変化を感じている。
- 2 「少しよくなった」：3人（20.0%）
一部改善を感じる回答者も多い。
- 3 「変わらない」：2人（13.3%）
変化がないと答えた回答者は少ない。
- 4 「やや悪くなった」：1人（6.7%）
対人面で悪化を感じた回答者がわずかにいる。

『学習面』

- 1 「とてもよくなった」：3人（20.0%）
学習面で大きな改善を感じた回答者は少数。
- 2 「少しよくなった」：6人（40.0%）
学習面で一部改善を感じた回答者が最も多い。
- 3 「変わらない」：6人（40.0%）
学習面での変化がないという回答も同程度。

全体の特徴として、最も改善が見られるのは精神面と対人面であった。

・子どもが精神的に安定し、他者との関わりが良くなったと感じる保護者が多い。

・生活面や学習面での変化はやや限定的

・学習面では「少しよくなった」「変わらない」の回答が多く、他の項目に比べて改善度は低い。

・全体的に「悪化」が少ない（ほとんどの項目で「悪化」を感じる回答がほぼ見られない。）

この結果は、フリースクールの利用が精神面や対人面での改善に大きく寄与していることを表している。一方で、生活リズムや学習面ではさらなる支援の余地があることを示している。

⑭「とてもよくなった」「少しよくなった」と回答した方について、お子さんの変化として当てはまると思うもの（複数回答可）

☐ ポジティブな変化（割合が高い項目）について以下にまとめる。

『身体的・精神的な活力の増加』

- 1 活動量が増えた（93.3%）
→利用者のほとんどが活動的になったことを示している
- 2 表情が豊かになった（73.3%）
- 3 →感情表現が豊かになり、明るい印象を与えるようになった。
- 4 気分が明るくなった（66.7%）
→精神面の改善が広く見られる。
- 5 よく笑うようになった（60.0%）
→積極的な感情の表出が増加。
- 6 外出が増えた（60.0%）
→社会的活動への参加が増えた。

『心理的な安定』

- 1 無理に我慢しなくなった（60.0%）
→自然体でいられる環境が子どもたちに提供されている。
- 2 前向きな発言や態度が見られる（66.7%）
→精神的な安定から積極性が生まれている。

『意欲や社会性の向上』

- 1 意欲的になった（53.3%）
→子どもたちが自己発揮に前向きになった。
- 2 友達の話をするようになった（46.7%）
→人間関係が良好に発展している兆候がうかがえる。

☐ 一部の子どもに限定された変化

『生活リズムの改善』

- 1 生活リズムが整った（26.7%）
- 2 朝起きられるようになった（20.0%）
- 3 寝つきがよくなった（6.7%）
→これらは、一部の子どもには効果が顕著であるが、全体的としてはやや改善傾向にあるといえる。

『学習面の変化』

- 1 学習への拒否感が軽減した（26.7%）
- 2 学習への興味関心が高まった（20.0%）

- 3 以前より書く・読むようになった (13.3%, 20.0%)

→学習意欲の向上はまだ特定の子どもたちに限られているといえる。

『対人関係・自己表現』

- 1 誰とでも話すようになった (20.0%)
- 2 冗談を言うようになった (40.0%)
- 3 友達とよく遊ぶようになった (33.3%)
- 4 やさしくなった、面倒見がよくなった (40.0%)
→社会性の発展は進んでいるが、一定の個人差がある。

『好奇心や自己成長の欲求』

- 1 好奇心旺盛になった (40.0%)
- 2 できるようになりたいという欲求が高まった (33.3%)
→自己成長や探究心の芽生えも一部で顕著。

全体の傾向について、最も大きな改善は精神面や活動面に見られ、特に「活動量」「表情」「気分」などポジティブな変化が多数の子どもに共通している。一方で、生活リズムや学習面の変化は一部にとどまっている。対人関係や自己表現についても一定の進展が見られるが、個人差が大きいといえる。

⑮当フリースクールを利用したことで、お子さんにとって最もよかった点を教えてください。(自由記述)

自由記述においては、それぞれの回答を大まかな傾向に分類した。

『精神的な安定と笑顔の増加』

- 1 不安で外出できなかった状態から、笑顔が増え元気になった。
- 2 学校のストレスから解放され、毎日明るく過ごせるようになった。

『安心できる居場所の存在』

- 1 自分から行きたいと思える楽しい居場所ができた。
- 2 学校以外でも安心できる環境があることがわかり、ストレスが軽減された。

『社会性や人間関係の向上』

- 1 異年齢の友達との交流を通じて社会性やルールを学んだ。
- 2 お友達や大人に囲まれ、安心して自分らしく過ごせるようになった。

『自己肯定感と自立心の向上』

- 1 自分のやりがいや役割が見つかり、いきいきと活動するようになった。
- 2 自分を表現する抵抗がなくなり、自信がついた。

『生活リズムと学習環境の改善』

- 1 趣味や活動を通して疲れ、自然な生活リズムが定着した。

2 強制されることなく学べる環境で学習面でも安心できた。

全体として、子どもたちが安心できる居場所を見つけ、精神的な安定、社会性の向上、自己肯定感の向上が見られたことが最も良かった点として挙げられている。

⑯当フリースクールを利用する上で、お子さんが困っていることや心配に感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

自由記述においては、それぞれの回答を大まかな傾向に分類した。

『子どもの特性や心理的な不安』

- 1 敏感な性格による困難
- 2 小さなきっかけで通えなくなる可能性がある。

『孤独や不安感』

- 1 一日を通して一人でいることへの不安。
- 2 仲の良かった友達が来なくなり、その理由が分からず心が不安定になる。

『フリースクールの環境や特性』

- 1 縦割り活動の難しさ
- 2 少人数での縦割り活動の中で、成長や人の入れ替わりに戸惑う場面がある。
- 3 自由時間の活用の難しさ
- 4 我慢が苦手で、ゲームをやりすぎて後悔することがある。

『学習面の不安』

- 1 学力の向上に関する心配
- 2 通常の学校と異なるカリキュラムが将来の進路（高校・大学・職業）に影響するのではないかという不安。
- 3 通信教育（スマイルゼミ）を併用しているが、一人ではつまづきがちで苦戦している。
- 4 学習内容の物足りなさ

『通学や日程に関する問題』

- 1 通学、帰りの心配
- 2 帰り道や習い事などのスケジュール管理への不安。
- 3 開催日数の少なさ
- 4 子どもが通える日数が足りず、もっと参加したいという要望。

『保護者の負担』

- 1 親の仕事やスケジュールへの影響
- 2 子どもが行くかどうかギリギリまで分からないため、仕事の時間が不安定になる。

⑰「お子さんが『フリースクール』を利用したことで、保護者の方の変化としてあてはまると思うもの（複数回答可）」

主な変化の傾向として、保護者の回答から、フリースクール利用によって多くのポジティブな変化が生じていることが分かる。特に、気分が明るくなることや、子どもの育ちや学びに対する価値観の変化、孤独感からの解放が顕著である。

「気分が明るくなった」（66.7%）

保護者の気分が大きく改善していることがわかる。この結果は、子どもの成長や変化を見守る中で、保護者の心理的な負担が軽減されたことを示唆している。

「子どもの育ちや学びにおける価値観が変わった」（60.0%）

子どもの学びに対する保護者の考え方が変化し、フリースクールの新しい教育方法が受け入れられていることを示している。

「孤独から解放された」「他の人と話すことが増えた」「時間的拘束が増えた」「支出が増えた」（各 53.3%）

保護者が孤立から抜け出し、他者と交流を持つ機会が増えていることがわかる。一方で、フリースクール利用に伴い時間的・経済的な負担も増加している。

「子どもとの関係が良くなった」「ストレスが減った」「学校や社会への考え方が変わった」（各 46.7%）

子どもとの良好な関係の構築やストレス軽減が、家庭環境や保護者の精神的な安定に寄与している。

「前向きになった」（53.3%）

保護者が未来への希望や楽観的な見方を持つようになったことが示されている。

「家族との関係が良くなった」「外出が増えた」（33.3%）

家族全体の関係改善や保護者自身の行動範囲の広がりが見られる。

「眠れるようになった」「食欲が出た」「体調不良が軽減した」（各 6.7%）

身体的な改善を感じた保護者は少数派であるが、一部には実感があることが分かる。

「自分の時間ができた」「学校との連携が取りやすくなった」（各 26.7%）

フリースクール利用によって保護者が個人の時間を確保できたり、学校との関係が円滑になったケースもある。

「仕事を辞めた又は休職した」「仕事に復帰又は仕事に就くことができた」「収入が減った」（20.0%～26.7%）

フリースクールの利用が保護者の就労状況に影響を及ぼしていることが示されている。

全体として、フリースクールの利用は、保護者に多くのポジティブな心理的・社会的変化をもたらしている一方で、時間的拘束や経済的な負担の増加も課題となっている。保護者の精神的な安定や価値観の変化が目立ち、子どもを支える家庭環境の向上に寄与していると言える。ただし、一部の保護者は生活面や就労面での課題を抱えており、これらへのサポートが今後の課題である。

⑱「当フリースクールを利用することで保護者にとって最もよかった点を教えてください」（自由記述）

全体の傾向として、フリースクールを利用することによって、保護者が心理的負担を軽減し、子どもの変化を通じてポジティブな影響を感じていることが多い。保護者は、子どもの安心できる居場所や自己肯定感を高める環境の提供を特に評価しており、さらに保護者同士やスタッフとの交流が支えとなっていると感じている。

以下に、各項目の詳細な分析を示す。

『心理的な負担の軽減』

- 1 「悩みをすぐ話せるのでストレスが減り前向きになった」という回答から、相談相手がいることで保護者のストレスが緩和されていることが分かる。
- 2 「学校に行かなくても出席になる」「学校との交渉ややり取りが行き詰まった時にもう一つの居場所がある」という意見は、学校への対応に悩む保護者にとってフリースクールが重要なセーフティネットになっていることを示している。

『子どもの成長や変化』

- 1 「子どもが生き生きしている姿を見られた事」や「子どもが自尊心を持って育つことができた」という意見は、子どものポジティブな変化が保護者にとって大きな喜びであることを示している。
- 2 「子どもが学校などのひとつの価値観でがんじがらめにされるのではなく、自分らしく育つ環境があること」という回答は、フリースクールの柔軟な環境が保護者から評価されていることを表している。

『安心感とサポート』

- 1 「子どもへのサポートがしっかりと考えられているので、1人でも安心して通わせられる」という意見から、スタッフの適切な対応が保護者に安心感を与えていることが分かる。
- 2 「親とはまた違う人が子どもの気持ちを大切にしてくれて子どもが信頼していること」は、家庭以外の信頼できる大人の存在が、保護者にとって大きな支えになっていることを示唆している。

『保護者間の交流と情報共有』

- 1 「同じ立場で似たような悩みを抱えている保護者やスタッフの方と繋がれて、色々な話が出来る」という回答は、保護者が孤立感から解放され、支え合う関係が築けていることを示している。
- 2 「同じ境遇の方から色々な情報を得られること」という意見は、情報共有の重要性が強調されており、保護者にとって有益であることが分かる。
- 3 「分かりあえる母の友人が増えたこと」という回答も、フリースクールを通じて生まれた新しい人間関係の価値を示している。

今後の展望として、保護者がフリースクールで得た安心感をさらに高めるため、スタッフのケアやサポート体制の充実が必要である。特に子どもの成長過程で新たに生じる課題に柔軟に対応する体制が求められる。しかしながら、支援体制を強化させていくためには、行政からの財政支援が必要不可欠である。

⑨当フリースクールを利用する上で、保護者にとって困っていることや心配に感じていることがあれば教えてください。

回答全体から、フリースクール利用における保護者の困りごとや心配事として、主に経済的負担と送迎の問題が大きく挙げられていることが分かる。これに加えて、活動日数の制限や親の負担も保護者の生活に影響を与えている。また、フリースクールの持つ有益性を認識しながらも、それを継続するための課題が多数指摘されている。

以下に、回答ごとの分類を示す。

『経済的負担』

- 1 授業料、交通費、フリースクールの月謝や交通費が高額であることが、家庭の経済的負担になっている。特に公立学校との差が大きく、補助金や支援が望まれている。
- 2 補助制度の欠如 「行政からの金銭的補助がほしい」という声が多く見られ、経済的な支援の必要性が強調されている。

『送迎の問題』

- 1 交通手段の不足
学舎が遠方にあり、送迎手段が限られていることが課題である。特に車を所有していない家庭や運転ができない保護者にとっては、通学が困難である。
- 2 交通費の負担
通常運賃やバス利用の交通費が高額であり、定期券の適用や送迎車の導入が求められている。

『活動日数の制限』

- 1 開校日数の少なさ

月9日程度の開校日では不十分であり、子どもが自宅で過ごす時間が多くなってしまう。通常の学校と同様の日数が求められている。

2 運営上の制約

日数を増やすためにはスタッフや運営費用が不足しており、現状の運営体制では難しいという問題が指摘されている。

『保護者の負担』

1 仕事との両立の難しさ

「フリースクールへの送迎や子どもとの関わりに時間を割く必要があるため、親が仕事と両立することが難しい。」

2 心理的・身体的負担

「ずっと子どもにつきっきりであること」や「養育者の体調が不安定で家庭に負担が偏っている」という具体的な例が挙げられている。

『その他の課題』

1 スタッフ間の連携不足

ほとんどのスタッフが家庭、子育て、仕事、フリースクールのボランティアを兼務しており、多忙な状況がスタッフ間のコミュニケーション不足につながることを懸念している。

2 フリースクールの限界 「やりたいことや挑戦したいことをすべてフリースクールだけでかなえるのは難しい」という指摘があり、子どもの成長や多様な経験を支えるための外部資源の活用が求められている。

これらの回答から、保護者の抱える心配事や不安を解消するためには、経済的負担の軽減策について早急に検討される必要がある。子どもの健全育成のためボランティア精神でもって運営されている民間支援団体にとって、運営体制を維持することだけでも多大な労力を要する。支援体制の強化として開校日数を増やすためには、スタッフの増員や運営資金の確保が必要である。家庭からの月謝収入には限りがあり、運営をまかなう金額を到底まかなえない。行政や地域からの補助金制度の導入が必要不可欠である。また、交通費や月謝についても負担軽減策を検討する必要がある。さらに、送迎手段の確保 公共交通機関の利用をサポートする仕組みや、送迎車の運用といった具体的な対応が求められている。特に遠方から通う子どもや保護者の負担軽減が重要である。本分析から、フリースクールが保護者にとって重要な役割を果たしている一方で、持続可能な運営と利用者支援のために改善が求められていることが明確である。

②今後についての不安や悩み事についてあてはまると思うもの（複数回答可）

全体の傾向として、保護者が抱える不安や悩み事には、経済的負担に関するものが最も多く挙げられている（93.3%）。また、学業、進路、社会的自立についての不安がそれぞれ73.3%と高い割合で回答されており、これらが保護者の大きな関心

事であることが明らかである。一方で、子どものメンタルの不調や対人関係についての不安は比較的少ない割合（20.0%および13.3%）である。

『経済的負担』

経済的負担が93.3%と非常に高い割合で挙げられている。この結果は、フリースクールの利用に伴う費用が家庭にとって大きな負担となっていることを示している。

『学業、進路、社会的自立』

学業、進路、社会的自立に関する不安はそれぞれ73.3%で、いずれも保護者が特に気にしている項目である。これらの不安は、子どもの将来に直接的に影響する要素であり、保護者にとって重要な課題となっている。

『子どものメンタルの不調』

メンタルの不調については20.0%と回答が少ないが、完全に無視できる割合ではない。この結果は、メンタルヘルスが一部の家庭にとって依然として課題であることを示唆している。

『子どもの対人関係』

対人関係についての不安は13.3%とさらに低いですが、少数ながらも存在している。

『家族および親との関係』

家族との関係については26.7%、親との関係については20.0%の回答があった。これらは家庭内のコミュニケーションやサポート体制が影響している可能性がある。

『学校との関係』

学校との関係についての不安は20.0%であり、一部の保護者が学校との連携や対応に課題を感じていることがわかる。

『特に不安や悩み事がない』

特に不安や悩み事がないと回答した保護者はいなかった（0.0%）。この結果から、すべての回答者が何らかの不安や悩み事を抱えていることが明確である。課題として、経済的負担の軽減。経済的負担が最も多く挙げられており、これを軽減するための支援策や補助金制度の導入が求められる。

『子どもの将来に関するサポート』

学業、進路、社会的自立についての不安を解消するため、具体的な進路指導やキャリアサポートが必要である。また、学業面でのサポートも重要である。

『家庭内外でのサポート体制の充実』

家庭内の関係や学校との関係についての不安を軽減するため、保護者へのカウンセリングなどの支援が有効である。

『メンタルヘルスへの対応』

メンタルヘルスの課題を抱える家庭には、心理的サポートや相談窓口を整備することが必要である。

以上のように、経済的負担や子どもの将来に関する不安が最も大きな課題であることが分かる。これらを解決するためには、フリースクールだけでなく、行政や地域社会との連携が重要である。

㊤「フリースクール等」に望むことがあればご記入ください。

全体の傾向として、保護者からは主に経済的負担の軽減と公的支援の強化を求める声が多く寄せられている。特に、フリースクールを利用する家庭の経済的な厳しさに焦点が当たっており、無償化や補助金の拡充を訴える声が多数を占めている。また、フリースクールが提供する学びと居場所の意義を認めつつ、その持続可能性やスタッフの待遇改善についても重要視されている。

以下に、回答の詳細を分類した。

『経済的負担の軽減』

- 1 公立学校と同じようにフリースクールを無償化することを望む意見が多い。
- 2 現在の状況では、学費だけでなく交通費や昼食代など多額の費用が発生しており、低所得家庭では対応が難しいとの声が寄せられている。
- 3 経済的支援が不足しているため、親がダブルワークやトリプルワークを強いられているケースも見られる。

『公的支援の強化』

- 1 フリースクールへの運営資金の援助拡大や行政からの支援が必要であるという意見が多い。
- 2 「義務教育の権利を享受できない子どもたちを支援するための公的な予算が必要だ」との具体的な訴えもある。
- 3 学校や教育委員会との連携の不備を指摘する意見があり、フリースクールと行政との協働体制の構築が求められている。

『フリースクールの持続可能性』

- 1 スタッフの献身に頼る運営の限界が指摘されている。
- 2 フリースクールで働く人材が安定して働ける仕組みづくりを求める声があり、待遇改善が課題となっている。
- 3 現在の運営が「ボランティア頼み」になっている点が懸念されており、持続可能な運営体制への転換が必要である。

『フリースクールの意義』

- 1 子どもにとって「もう一つの居場所」としての重要性が強調されている。
- 2 親だけでなく子どもも精神的な支えを得られる場であることが評価されている。
- 3 ただし、「やりたいことをすべてフリースクールでかなえるのは難しい」という制約があるとの意見もある。

回答から浮彫になった課題としては、フリースクールの利用家庭に対する経済的支援を早急に拡大する必要性についてである。また、低所得家庭が利用しやすい環境を整えるため、学費以外の費用（交通費、昼食代など）への支援も検討すべき事項である。

また、不登校児童生徒の育ちと学びを支援する民間支援団体の持続可能な運営体制を構築していくためには、スタッフの労働環境を改善し、フリースクールで働く人々が安心して働ける仕組みを構築する必要がある。現在の「ボランティア頼み」の運営から脱却し、安定した運営資金を確保する体制が必要である。

不登校児童生徒数の昨今の増加傾向に照らし合わせると、教育の選択肢の拡大は必要不可欠であり、フリースクールを通じて子どもの個性や希望を尊重する教育環境のさらなる拡充が必要であること、家族の心理的ケアや支援を含めた包括的支援体制が早急に整備されることが求められている。

(5) その他

該当事業なし

【業務内容】※必要に応じて、項目や行を挿入すること。

※ 「(3) 不登校児童生徒の教育ニーズとフリースクール等の現状に関する課題」及び「(4) 「不登校児童生徒の保護者のニーズに関する調査と課題の分析」」の【支援ニーズ調査概要】は別途資料を添付することにより代えることもできる。

千葉県モデル事業2024 フリースクール活動記録システム 「GLID for フリースクール」 保護者ヒアリング結果報告



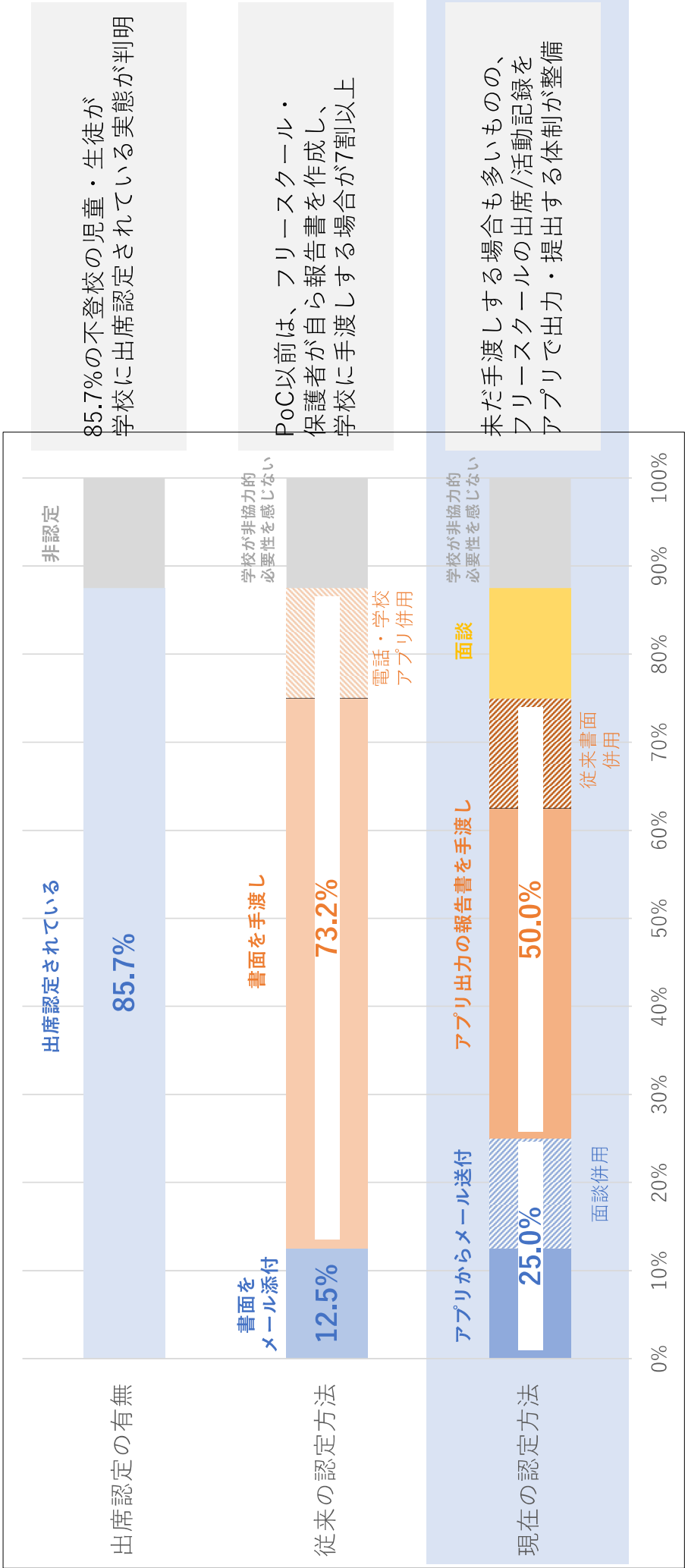
学習圏開発機構 LeSDA
Learning Sphere Development Association

住所：〒1020074 東京都千代田区九段南1-5-6りそな九段ビル5F KSフロア 学習圏開発機構

Mail: info@lesda.org

HP: <https://lesda.org/>

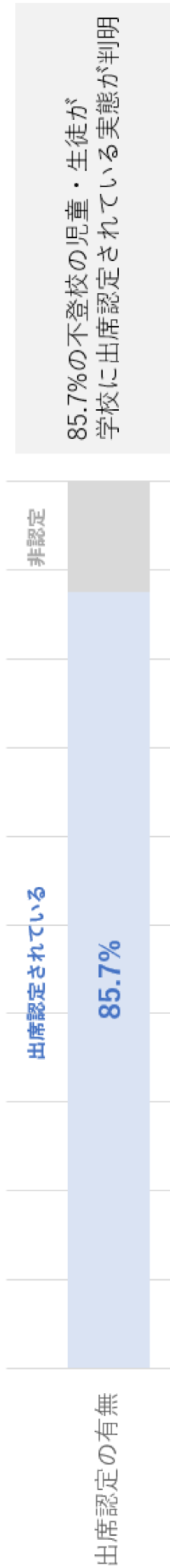
実証実験に参加した児童・生徒のうち、75%はGLID for フリースクールアプリを経由して出席認定を実施



出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

Copyright Learning-Sphere Development Association All Rights Reserved.

不登校の児童・生徒をもつ保護者は、教育現場の現状や子どもたちの未来に様々な課題を感じている



フリースクールをはじめとする、教育現場の現状に対する保護者の方々からのご意見

子どもがやりたいという気持ちを大事にした居場所がとても大切だと感じています。現在の学校だと実現が難しいですが、フリースクールだとそれが出来るのでありがたいです。ただ費用の負担は大きいので、助成があると助かります。

公的に認められているのが学校しか無い為、そこから外れた子ども達は精神的に追い詰められてしまっています。子ども達に最初から選択肢が沢山ある世の中になってほしいと思います。

現在、フリースクールに通っていますが、本人が毎回通いたくても、家計が苦しく全部は通わせてあげられません。また、小学生から中学生になると、交通費も倍になります。どのような家庭の子も等しくフリースクールに通えるように、補助金を支給して欲しいです。

学校としては不登校に理解があるとは思いますが、通ってない子(親子)のケアまでは手が回らない状態だと感じます。

学校側に何度お願いしても、データで受け取ってくれない(学校メールすら教えてくれません〜)学校は完全に受け身であり、学区内であるのにフリースクールに一度も見学に来ない。

フリースクールは正直手が回っていないので試行錯誤で

時代の変化と共に、変えられるところは変えつつも、人との関わりは1番に大事にすることを忘れずに、子供も大人も成長して行ける世の中にしたいです

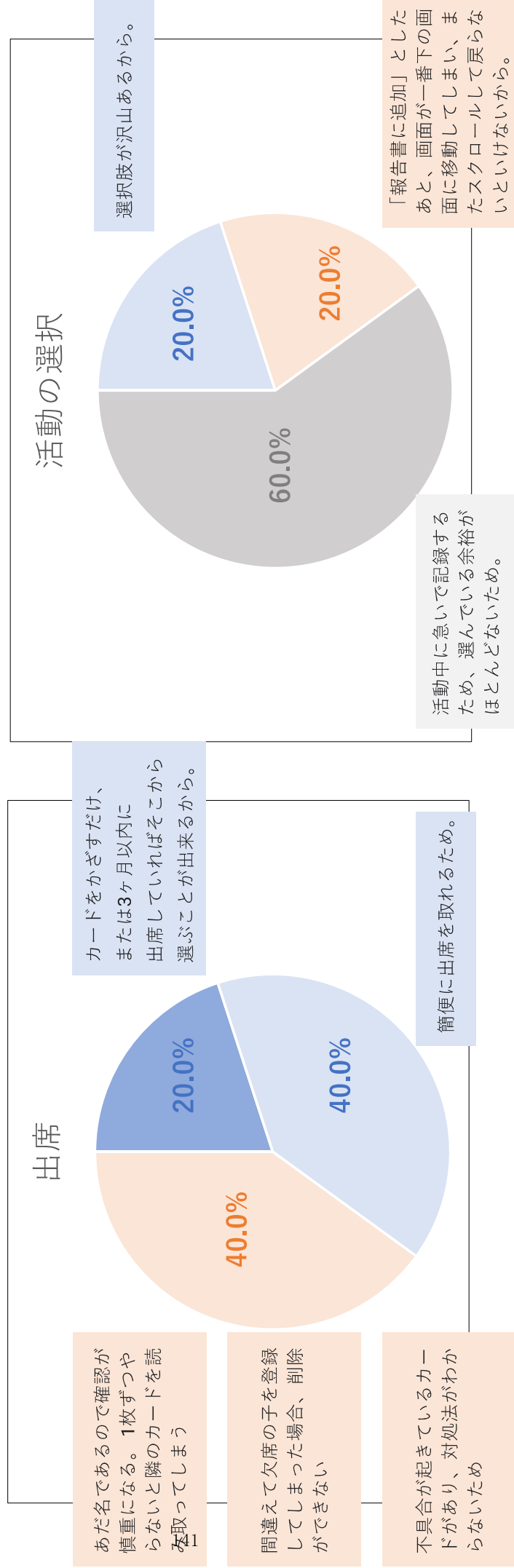
学校との連携については、だれが、何をどんなふうに連携するか議論の無いまま連携が始まっている。フリースクール側としては、子どもが生き生きと活動している様子が学校に伝わるようにという願いのもとに連携に係る業務負担を受け入れている。フリースクールだけにそうした連携業務を負わせるのではなく、学校とフリースクールが双方に連携を取れるよう議論を深めていく必要があると思う。

出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

フリースクールの活動記録アプリの使用状況・使用感の調査

アプリにカードをかざすだけでフリースクールの出席がとれる機能は、柔軟な運用にまだ課題を残しているものの、保護者・スタッフの方々から概ね高評価を獲得

「GLID for フリースクール」の各機能の使用感



出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

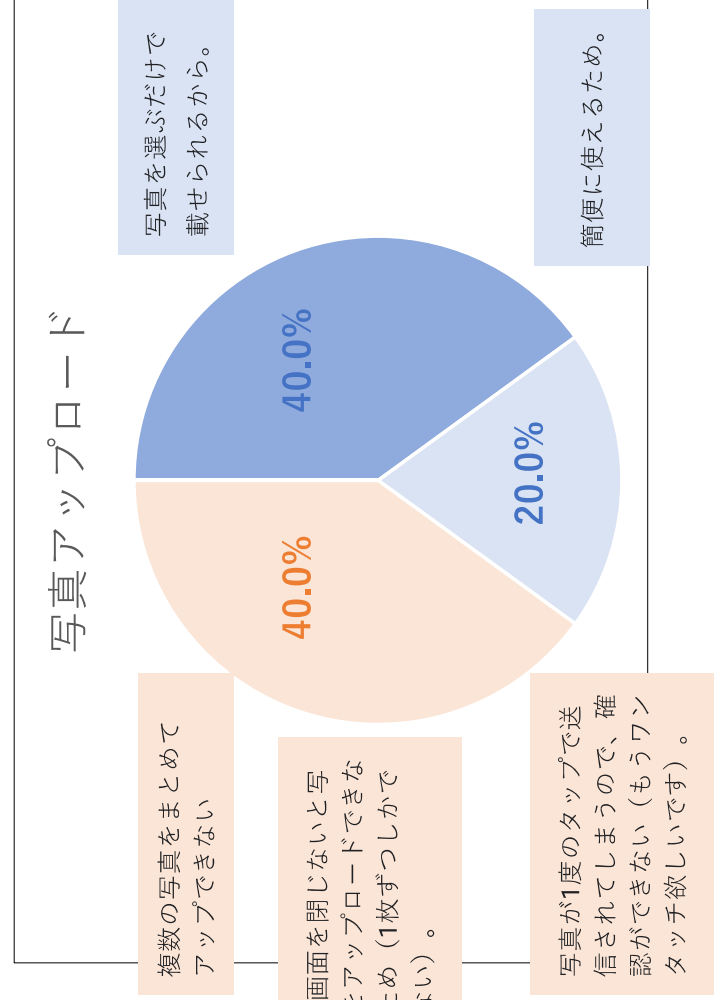
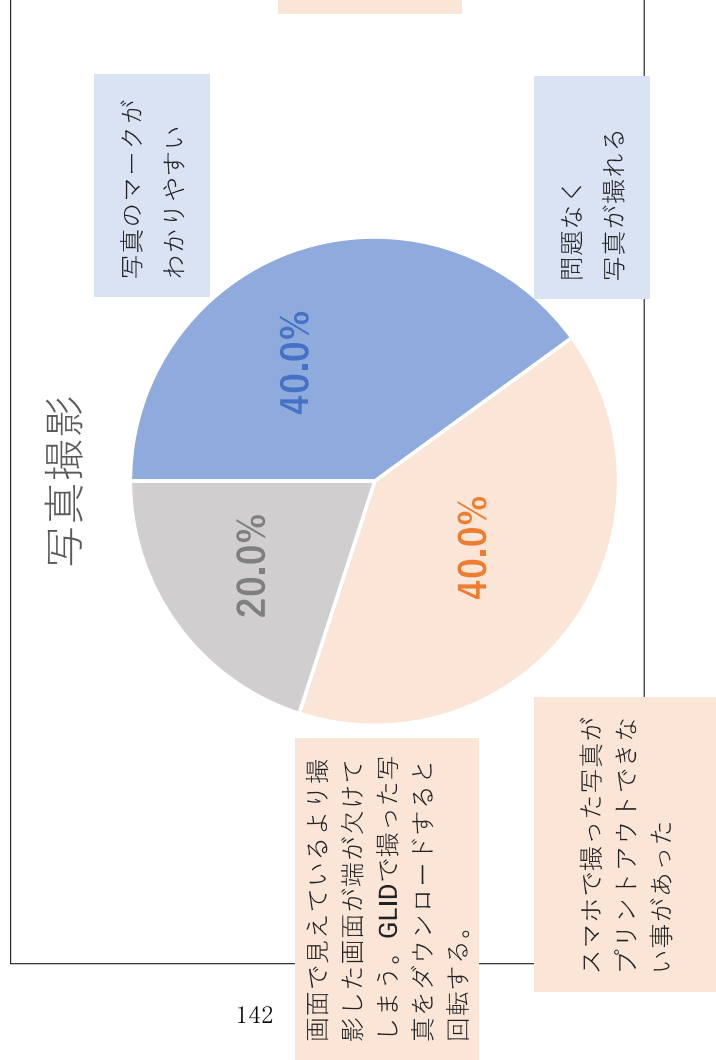
Copyright Learning-Sphere Development Association All Rights Reserved.

フリースクールの活動記録アプリの使用状況・使用感の調査

アプリで子どもたちの様子を撮影・アップロードする機能について、使いやすいと感じる保護者・スタッフと使いづらいと感じる保護者・スタッフが共に存在することが判明

「GLID for フリースクール」の各機能の使用感

使用感	とても使いやすい	やや使いやすい	やや使いづらい	とても使いづらい	使っていない	知らなかった
写真撮影	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
写真アップロード	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%



出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

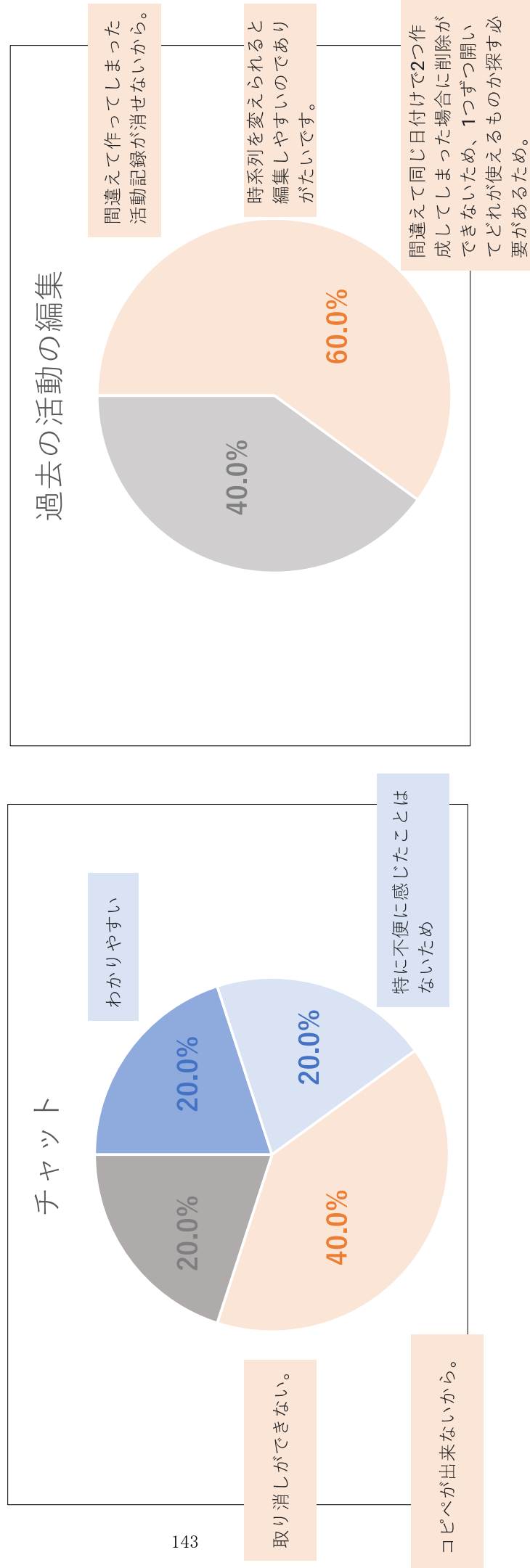
Copyright Learning-Sphere Development Association All Rights Reserved.

フリースクールの活動記録アプリの使用状況・使用感の調査

アプリで記録した子どもたちの過去の活動を編集する機能について、スタッフが誤作成した日付の活動記録の編集、時系列の表示といった仕様上の改善の余地があることが判明

「GLID for フリースクール」の各機能の使用感

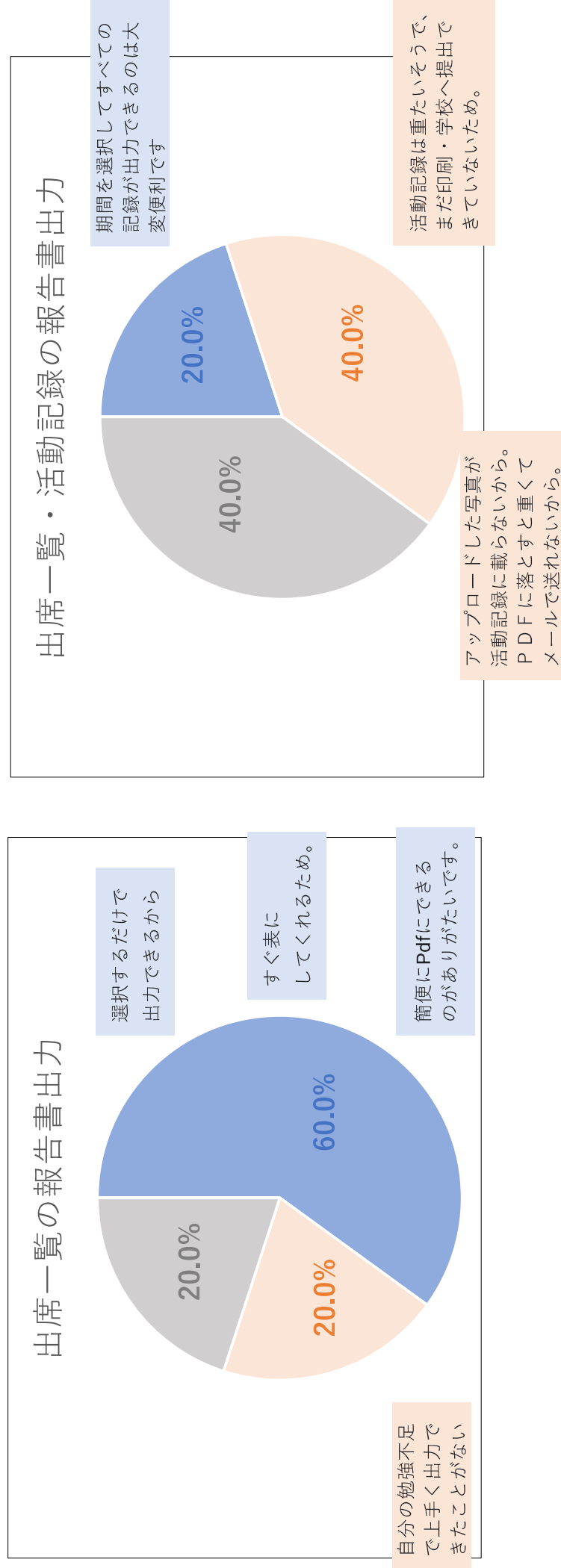
使用感	とても使いやすい	やや使いやすい	やや使いづらい	とても使いづらい	使っていない	知らない
過去の活動の編集	40.0%	60.0%				



フリースクールの活動記録アプリの使用状況・使用感の調査

アプリで記録した子どもたちの出席一覧が自動で報告書に出力できる機能が嬉しい一方で、実際の活動内容まで記録した報告書を出力・提出する際は、学校が受信可能なデータ容量の課題があることが判明

「GLID for フリースクール」の各機能の使用感



出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

Copyright Learning-Sphere Development Association All Rights Reserved.

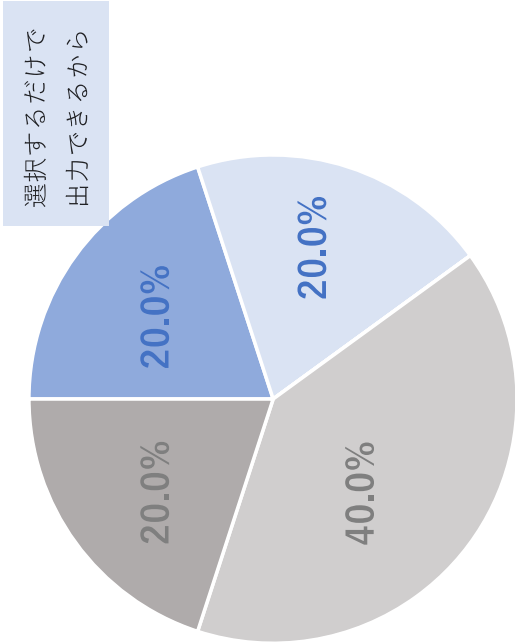
フリースクールの活動記録アプリの使用状況・使用感の調査

個別の機能・仕様に課題は残しているものの、フリースクール・保護者の負担を軽減するアプリの開発によって、子どもたちと向き合う時間が増えて、豊かな未来が生まれる方向性は共有できていることを確認

「GLID for フリースクール」の各機能の使用感

とても使いやすい やや使いやすい やや使いづらい とても使いづらい 使っていない 知らなかった

出席集計表



選択するだけで出力できるから

「GLID for フリースクール」およびアプリを開発しているLeSDAへのご意見

色々書いてしまいましたが、いつも大変な作業をして頂きありがとうございます。

新しい開発に向かって頂いてありがとうございます。私は機械が苦手な人間なので、中々早く覚えられませんが、今の子供達の機械の飲み込みの速さを見ると、必要なんだなあとつくづく感じます。

学校にフリースクールでの子ども達の様子を詳しく伝えることが可能になり、とても助かっています。直接書類を手渡ししなくてもデータを送れるのは、保護者としては負担が減って嬉しいです。ありがとうございます！

感謝しかないです。

すみません、仕事が忙しいため、スクールの方には子どもしか行っていないため、まだアプリのダウンロードをしていないのですが、とても画期的だと思います。保護者がフリースクールに行かなくてもアプリを簡単に使えたと助かります。

(学校側の受け取れるメールの都合で) データの容量が大きすぎてメールに添付できません。学校には出席日数のみお知らせしています。

私たちのためにアプリを開発していただきありがとうございます！とても画期的なことだと感じています(^^)一緒に作っていただけだと思います！今後ともよろしくお願いいたします。

丁寧なヒアリングをもとにアプリの修正を手がけていただきました。本当にありがとうございます。機能的なものから使用感まで含む様々なニーズにご対応いただくのは大変なことであろうと素人ながらに思いました。十分な連携に生かすためにはまだいくつものステップがあるかと思いますが、ぜひともたくさんの方のフリースクールが利用できるようなものを期待しています。

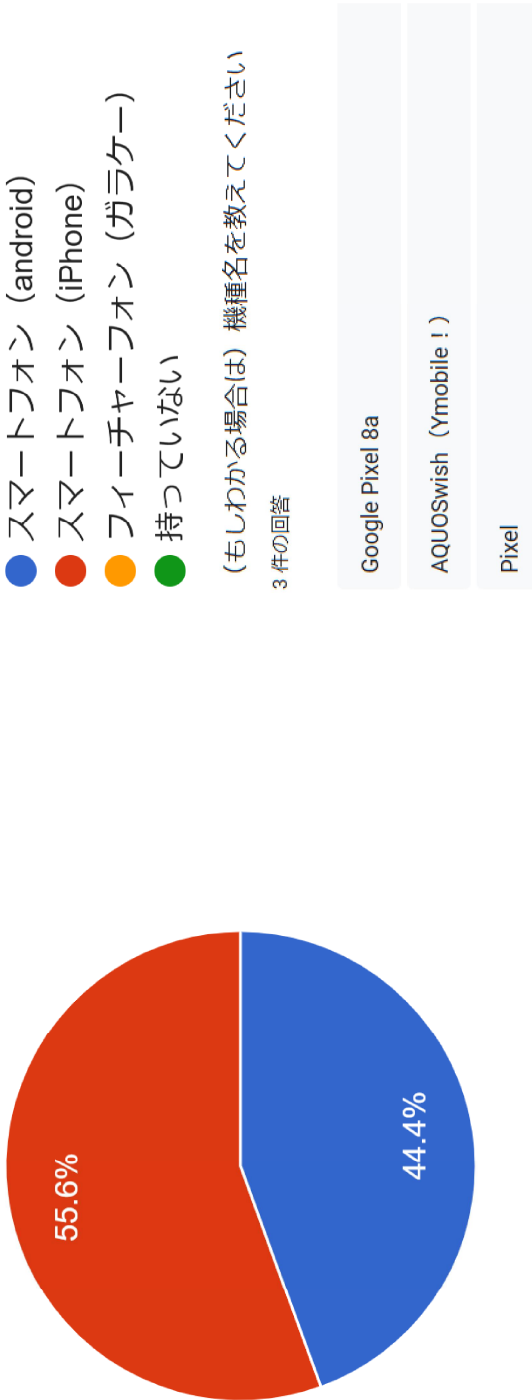
出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

Copyright Learning-Sphere Development Association All Rights Reserved.

【参考】 フリースクールの活動記録アプリの使用状況・使用感の調査

【参考】 iPhoneユーザーが過半を占めるため、最新アプリのiOS対応は必須

現在、主に使っている携帯の種類はどれですか？
9 件の回答



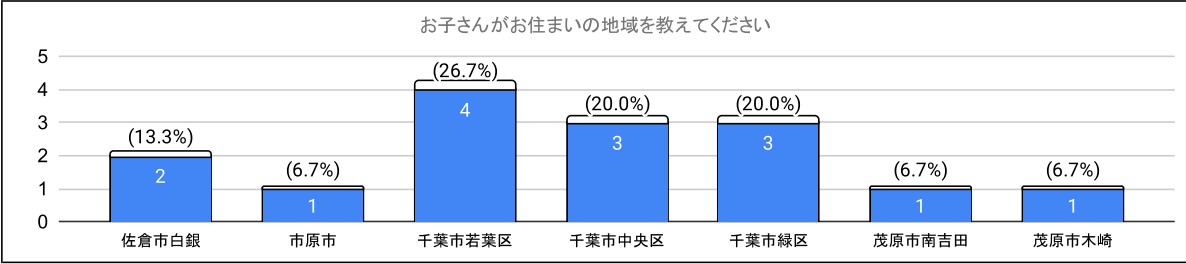
出所) 今回の実証実験に参加した、不登校の児童・生徒をもつ保護者に対して実施したWebアンケート。千葉県モデル事業2024の一環として12/10~12/15に実施。

Copyright Learning-Sphere Development Association All Rights Reserved.

【千葉県フリースクール等モデル事業】
まなびスペース COCOCARA保護者に対するアンケート調査 (2024.9.15～2024.9.30)

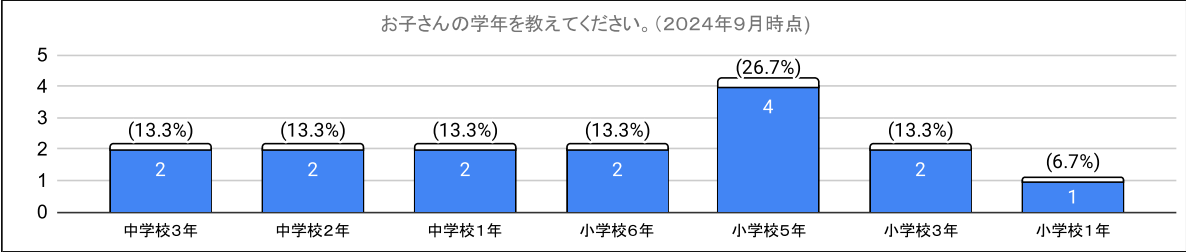
■お子さんがお住まいの地域を教えてください。例(〇市〇区)

佐倉市白銀	2	(13.3%)
市原市	1	(6.7%)
千葉市若葉区	4	(26.7%)
千葉市中央区	3	(20.0%)
千葉市緑区	3	(20.0%)
茂原市南吉田	1	(6.7%)
茂原市木崎	1	(6.7%)



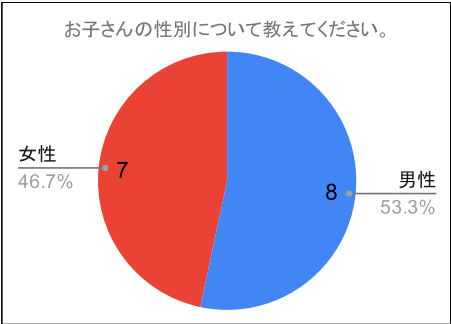
■お子さんの学年を教えてください。(2024年9月時点)

中学校3年	2	(13.3%)
中学校2年	2	(13.3%)
中学校1年	2	(13.3%)
小学校6年	2	(13.3%)
小学校5年	4	(26.7%)
小学校3年	2	(13.3%)
小学校1年	1	(6.7%)



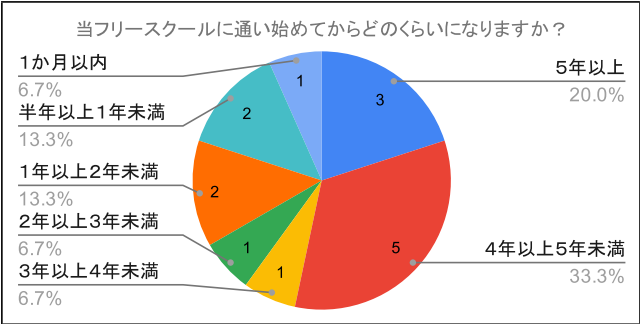
■お子さんの性別について教えてください。

男性	8	53.3%
女性	7	46.7%



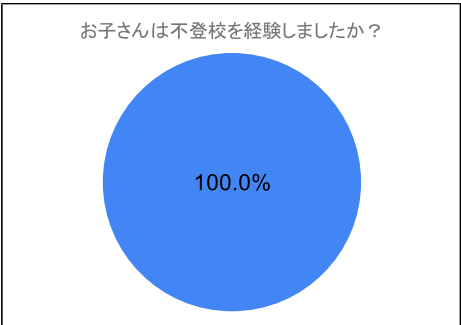
■当フリースクールに通い始めてからどのくらいになりますか？
(通わない期間があった方、たまに通われる方も、通い始めてからの年数でお答え下さい)

5年以上	3	20.0%
4年以上5年未満	5	33.3%
3年以上4年未満	1	6.7%
2年以上3年未満	1	6.7%
1年以上2年未満	2	13.3%
半年以上1年未満	2	13.3%
1か月以内	1	6.7%



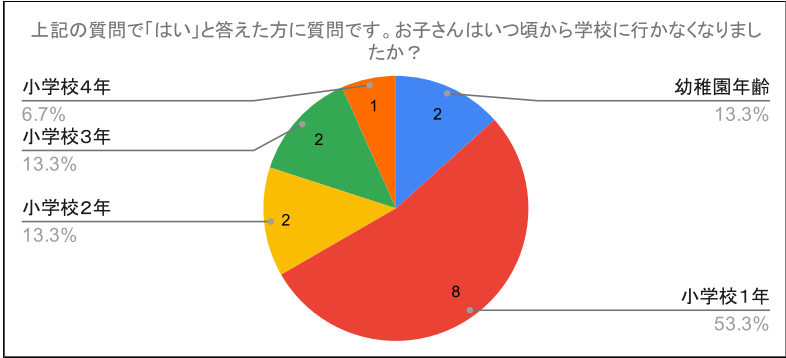
■お子さんは不登校を経験しましたか？

はい	15	100.0%
----	----	--------



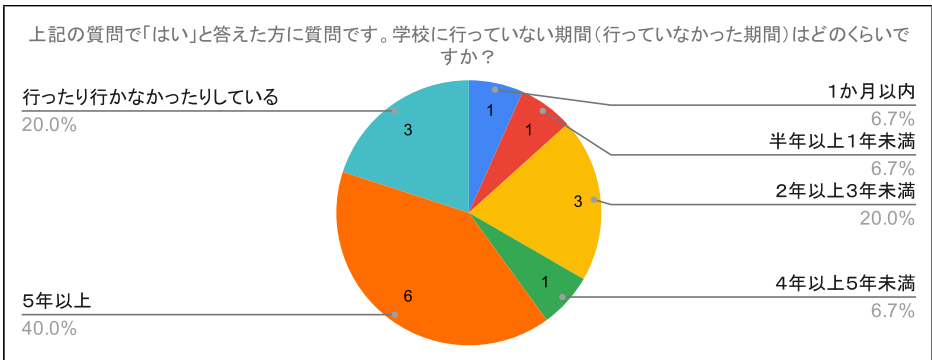
■上記の質問で「はい」と答えた方に質問です。お子さんはいつ頃から学校に行かなくなりましたか？

幼稚園年齢	2	13.3%
小学校1年	8	53.3%
小学校2年	2	13.3%
小学校3年	2	13.3%
小学校4年	1	6.7%



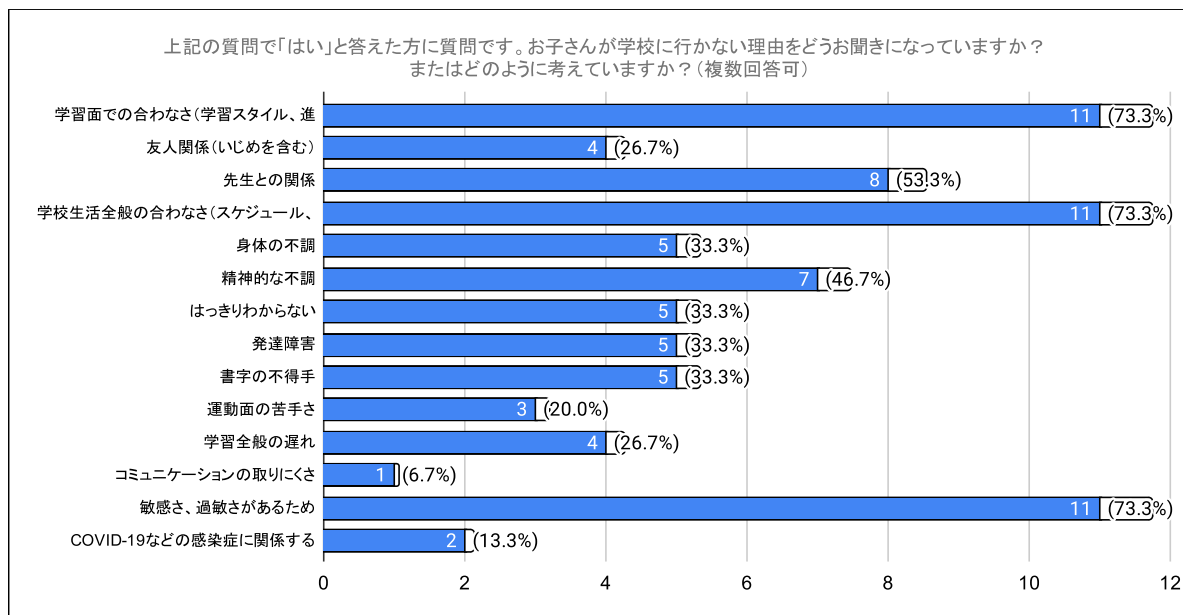
■上記の質問で「はい」と答えた方に質問です。学校に行っていない期間(行っていなかった期間)はどのくらいですか？

1か月以内	1	6.7%
半年以上1年未満	1	6.7%
2年以上3年未満	3	20.0%
4年以上5年未満	1	6.7%
5年以上	6	40.0%
行ったり行かなかったりしている	3	20.0%



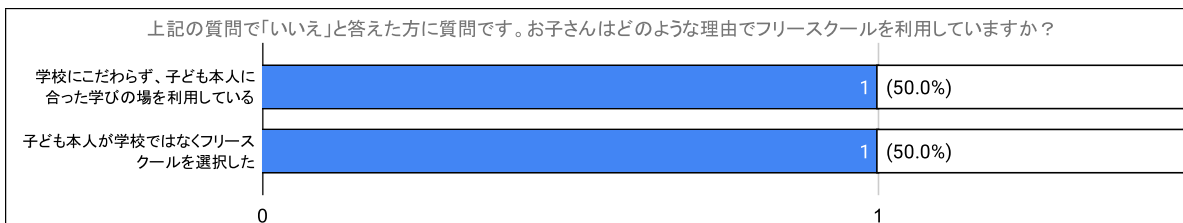
■上記の質問で「はい」と答えた方に質問です。お子さんが学校に行かない理由をどうお聞きになっていますか？またはどのように考えていますか？（複数回答可）

学習面での合わなさ(学習スタイル、進度、教育内容、指導方法など含む)	11	(73.3%)
友人関係(いじめを含む)	4	(26.7%)
先生との関係	8	(53.3%)
学校生活全般の合わなさ(スケジュール、給食、部活、環境など)	11	(73.3%)
身体の不調	5	(33.3%)
精神的な不調	7	(46.7%)
はっきりわからない	5	(33.3%)
発達障害	5	(33.3%)
書字の不得手	5	(33.3%)
運動面の苦手さ	3	(20.0%)
学習全般の遅れ	4	(26.7%)
コミュニケーションの取りにくさ	1	(6.7%)
敏感さ、過敏さがあるため	11	(73.3%)
COVID-19などの感染症に関係する	2	(13.3%)



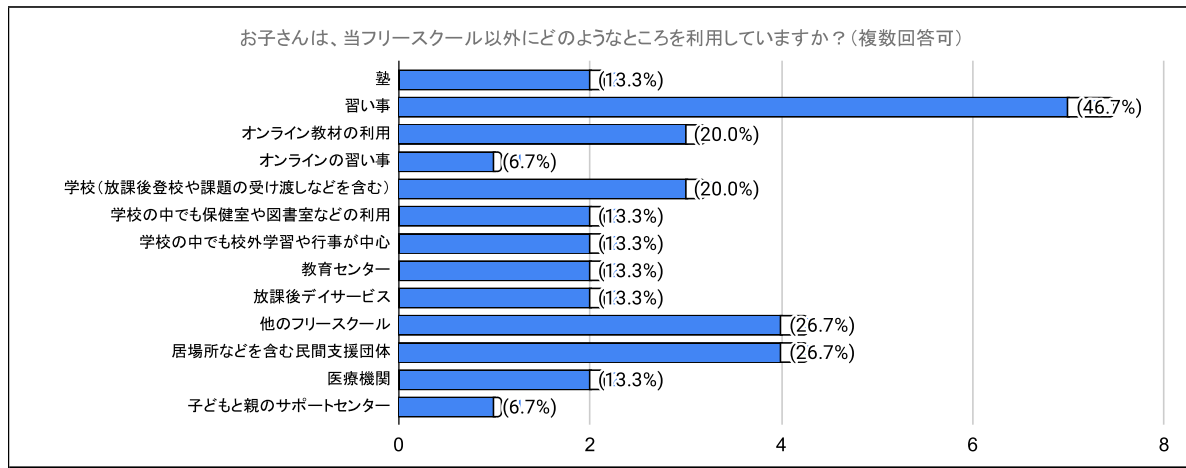
■上記の質問で「いいえ」と答えた方に質問です。お子さんはどのような理由でフリースクールを利用していますか？

学校にこだわらず、子ども本人に合った学びの場を利用している	1	(50.0%)
子ども本人が学校ではなくフリースクールを選択した	1	(50.0%)



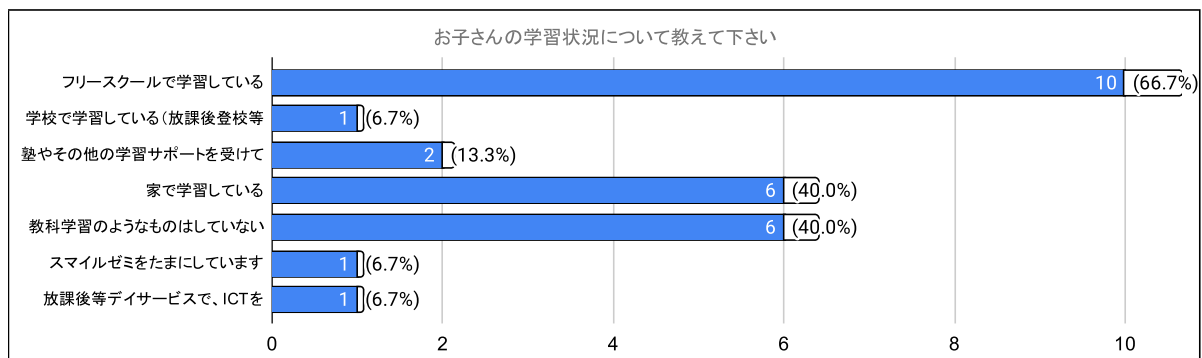
■お子さんは、当フリースクール以外にどのようなところを利用していますか？(複数回答可)

塾	2	(13.3%)
習い事	7	(46.7%)
オンライン教材の利用	3	(20.0%)
オンラインの習い事	1	(6.7%)
学校(放課後登校や課題の受け渡しなどを含む)	3	(20.0%)
学校の中でも保健室や図書室などの利用	2	(13.3%)
学校の中でも校外学習や行事が中心	2	(13.3%)
教育センター	2	(13.3%)
放課後デイサービス	2	(13.3%)
他のフリースクール	4	(26.7%)
居場所などを含む民間支援団体	4	(26.7%)
医療機関	2	(13.3%)
子どもと親のサポートセンター	1	(6.7%)



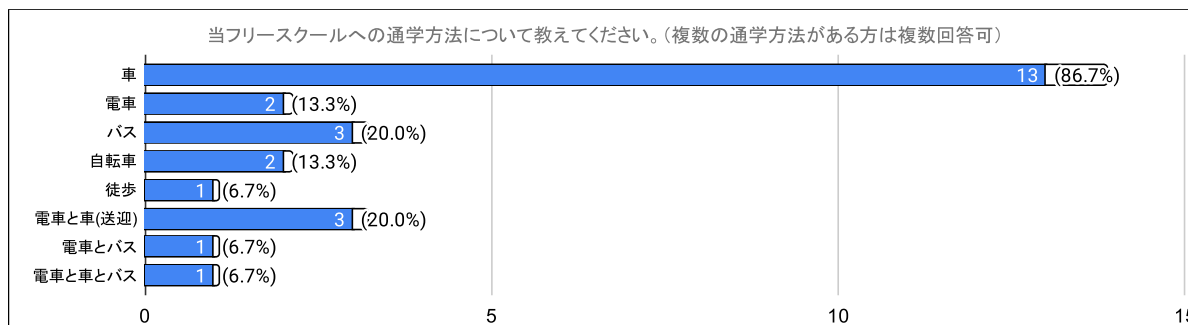
■お子さんの学習状況について教えてください

フリースクールで学習している	10	(66.7%)
学校で学習している(放課後登校等を含む)	1	(6.7%)
塾やその他の学習サポートを受けている(オンラインを含む)	2	(13.3%)
家で学習している	6	(40.0%)
教科学習のようなものはしていない	6	(40.0%)
スマイルゼミをたまにしています	1	(6.7%)
放課後等デイサービスで、ICTを使って学習している	1	(6.7%)



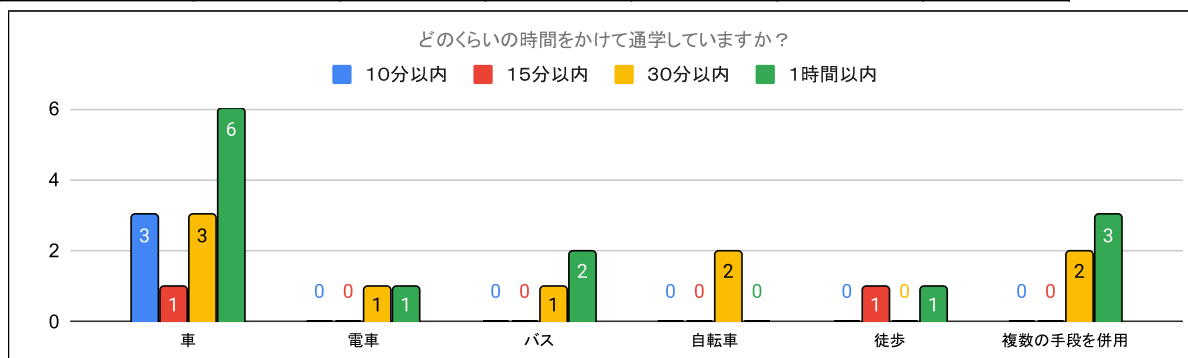
■当フリースクールへの通学方法について教えてください。(複数の通学方法がある方は複数回答可)

車	13	(86.7%)
電車	2	(13.3%)
バス	3	(20.0%)
自転車	2	(13.3%)
徒歩	1	(6.7%)
電車と車(送迎)	3	(20.0%)
電車とバス	1	(6.7%)
電車と車とバス	1	(6.7%)



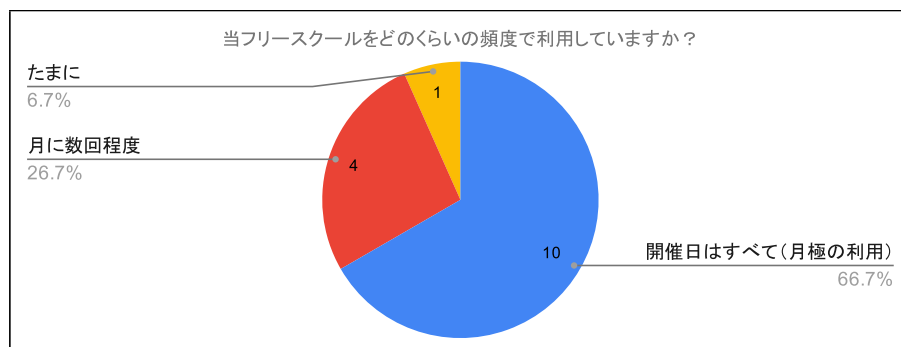
■どのくらいの時間をかけて通学していますか？

	車	電車	バス	自転車	徒歩	複数の手段を併用
10分以内	3	0	0	0	0	0
15分以内	1	0	0	0	1	0
30分以内	3	1	1	2	0	2
1時間以内	6	1	2	0	1	3



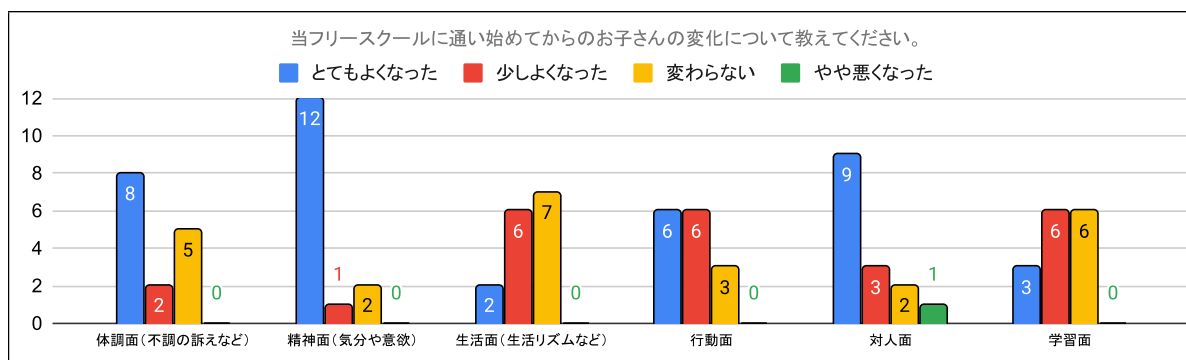
■当フリースクールをどのくらいの頻度で利用していますか？

開催日はすべて(月極の利用)	10
月に数回程度	4
たまに	1



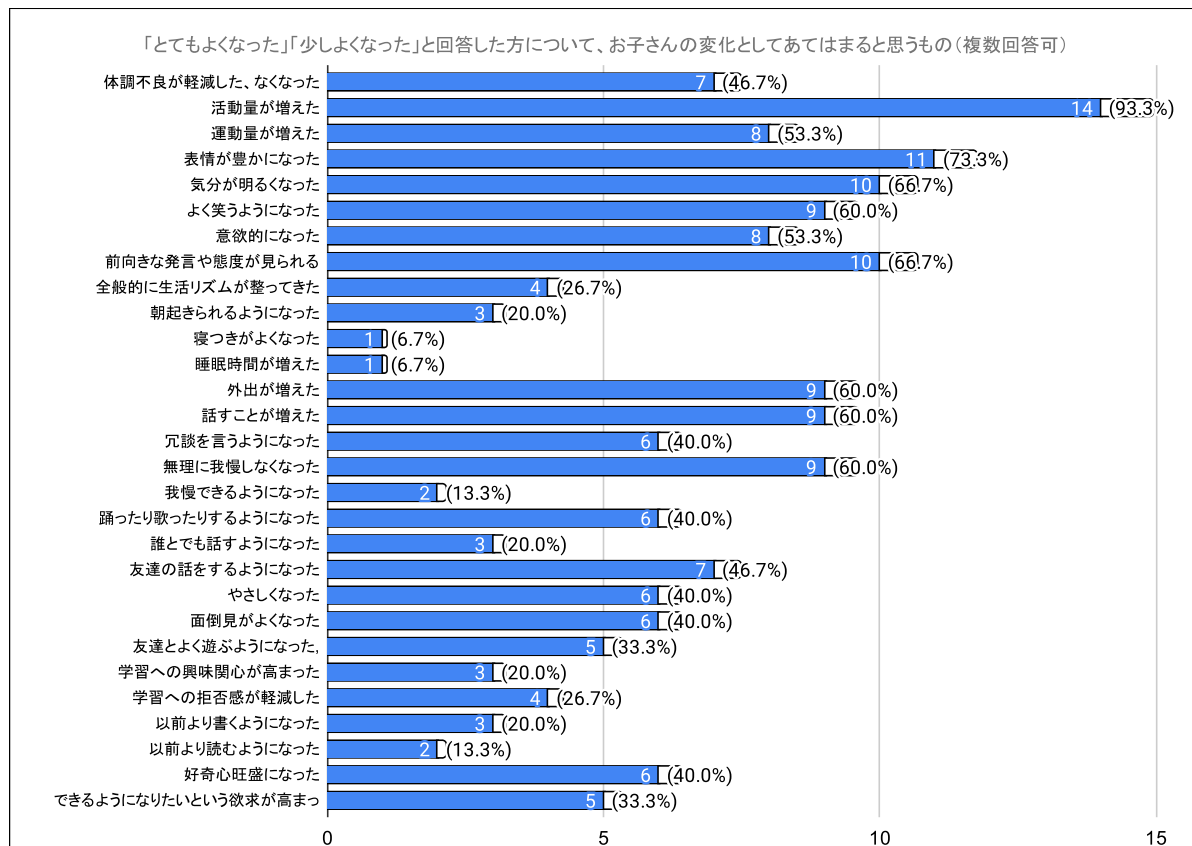
■当フリースクールに通い始めてからのお子さんの変化について教えてください。

	体調面(不調の訴えなど)	精神面(気分や意欲)	生活面(生活リズムなど)	行動面	対人面	学習面
とてもよくなった	8	12	2	6	9	3
少しよくなった	2	1	6	6	3	6
変わらない	5	2	7	3	2	6
やや悪くなった	0	0	0	0	1	0



■「とてもよくなった」「少しよくなった」と回答した方について、お子さんの変化としてあてはまると思うもの(複数回答可)

体調不良が軽減した、なくなった	7	(46.7%)
活動量が増えた	14	(93.3%)
運動量が増えた	8	(53.3%)
表情が豊かになった	11	(73.3%)
気分が明るくなった	10	(66.7%)
よく笑うようになった	9	(60.0%)
意欲的になった	8	(53.3%)
前向きな発言や態度が見られる	10	(66.7%)
全般的に生活リズムが整ってきた	4	(26.7%)
朝起きられるようになった	3	(20.0%)
寝つきがよくなった	1	(6.7%)
睡眠時間が増えた	1	(6.7%)
外出が増えた	9	(60.0%)
話すことが増えた	9	(60.0%)
冗談を言うようになった	6	(40.0%)
無理に我慢しなくなった	9	(60.0%)
我慢できるようになった	2	(13.3%)
踊ったり歌ったりするようになった	6	(40.0%)
誰とでも話すようになった	3	(20.0%)
友達の話をするようになった	7	(46.7%)
やさしくなった	6	(40.0%)
面倒見がよくなった	6	(40.0%)
友達とよく遊ぶようになった、	5	(33.3%)
学習への興味関心が高まった	3	(20.0%)
学習への拒否感が軽減した	4	(26.7%)
以前より書くようになった	3	(20.0%)
以前より読むようになった	2	(13.3%)
好奇心旺盛になった	6	(40.0%)
できるようになりたいという欲求が高まった	5	(33.3%)



■当フリースクールを利用したことで、お子さんにとって最もよかった点を教えてください。

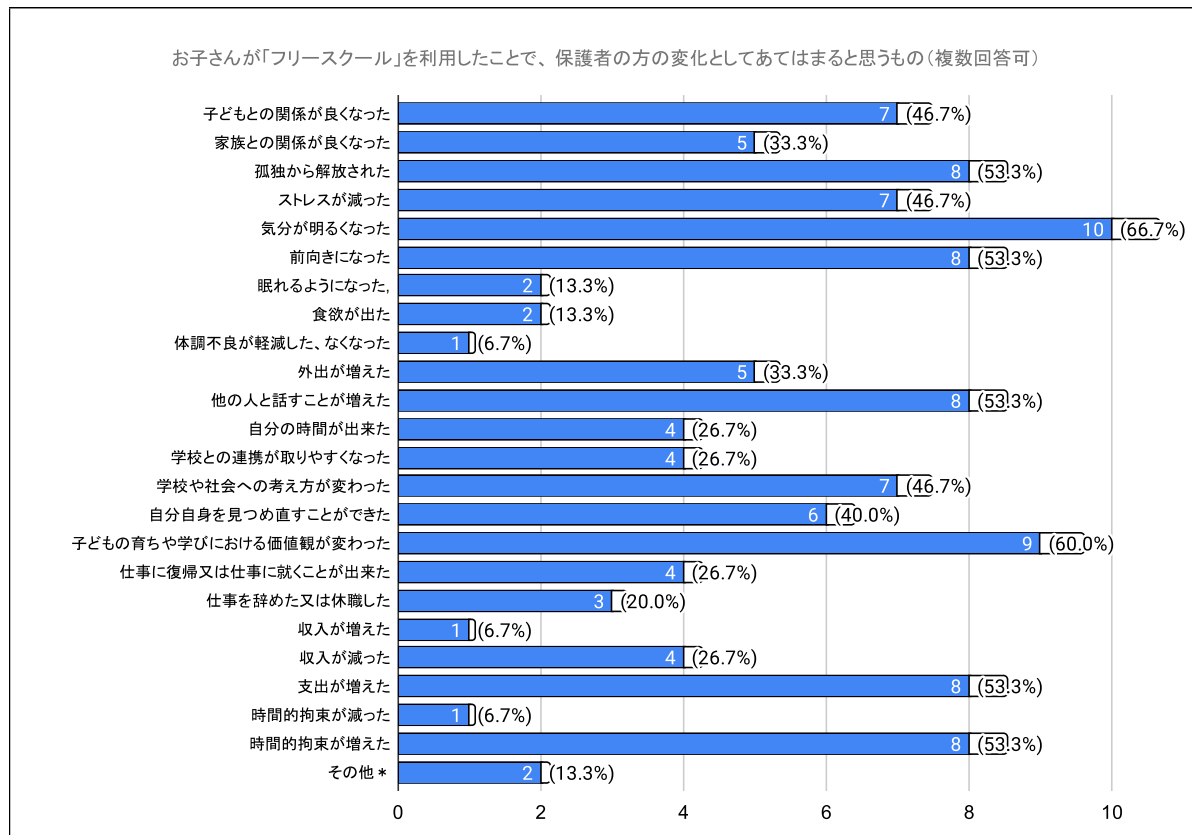
不安で外に出ることも出来なかった所から、笑顔が増え元気になった
自分から行きたい、早く夏休み終わらないかな、と言う位、楽しみな居場所ができた、趣味のパソコンやゲームができ、ほどよく外で身体も動かし、疲れて寝るリズムが定着。ムリしてみんなと同じ事を強要される事もなく、安心していられる様子。
学校以外での居場所があるとわかったこと、大人に警戒しなくても良いとわかったこと。
お友だちとの関わり合いの中で、自分を確立していくことができています。
異なる年齢の子どもたちとの交流
COCOCARAに行く決めてまでは、学校以外でも学校のしんどさが頭から離れず、楽しい時すらも学校のつらさが頭に浮かんでいました。この事から解放されて楽になったのと、明日学校行こうか休もうか、休んだらお父さんに叱られるのではないかな等の毎日のストレスがなくなり、寝る前や起きてから明るくなりました。明日を楽しみにできるようになったようです。生き生きしていると思います。自分が通う居場所に心配がなく、毎日が楽しいこと。これが何より良かったです。
子どもが自ら選んで行ける場所があるということ。
学校以外の居場所、学ぶ場所があると知って、同じ立場の子達が元気に過ごしているのを知ることが出来た点です。
安心できる異年齢のお友達がいる中で、社会性や様々なルールを学ぶことができるということは、息子にとってとても自然で無理のない環境だと思います。
安心できるお友達と大人に囲まれたことはとても良かったと思います。
他のフリースクールや塾での経験も含めて、集団の場で自分らしくいられたり、自分のことを表現することに抵抗がなくなり、自分に自信がついてきたこと。
自分のやりがいや役割があることで、活き活きして活動していることがある点
学習面で強制されなくなったこと。親友ができたこと。

■当フリースクールを利用する上で、お子さんが困っていることや心配に感じていることがあれば教えてください。

元々敏感な子なので、些細なことで行けなくなることがある
少ない人数の縦割り活動で、人の入れ替えもあるので、成長と共にとまどう事が出てきてはいる
自由な時間があるけれど、我慢するのが苦手なためゲームをやめられなくなってしまい帰ってから後悔している時がある。
通学、特に習い事などもあるので、帰りが少し心配なようです。
少しずつ慣れてきましたが、まだ一日を通して一人でいるのは不安があるようです。
娘が心配している点です。中3までCOCOCARAに在籍して、高校進学が通常通りできるのかどうか。また普通の高校ではなく通信制高校や、進学せず高卒認定をとるとしても、望む将来のための大学等進学の学力が身につかず、選択可能な職業が狭まってしまうのではないかと娘はかなり心配しています。その観点から、通常の中学校に我慢して通う方がいいのかと本人が大変悩みCOCOCARAに行こうと決めきれないほどでした。その問題について、古山明男先生がCOCOCARAにいても学力がつく学習カリキュラムを研究してくださっているの信頼して、COCOCARAで勉強しようとしているところです。また、古山先生のお勉強とは違い、通常の中学校の進度なので娘はしんどいかもかもしれませんが、小学校から続けているスマイルゼミ(通信教育)も一応、併用しています。スマイルゼミはひとりではつまづきがちなので、娘はどうすればいいかスマイルゼミに悩みがちです。
行くと決めるのがギリギリまでわからずいつでも連れて行けるようにしているが、仕事の時間が不安定になる。
学習面での物足りなさ
本人には開催日数が物足りないこと。1番は、仲が良かった友達が急に来なくなったことが理由が分からないのでとても心配に感じて心がザワザワしている。

■お子さんが「フリースクール」を利用したことで、保護者の方の変化としてあてはまると思うもの
(複数回答可)

子どもとの関係が良くなった	7	(46.7%)
家族との関係が良くなった	5	(33.3%)
孤独から解放された	8	(53.3%)
ストレスが減った	7	(46.7%)
気分が明るくなった	10	(66.7%)
前向きになった	8	(53.3%)
眠れるようになった、	2	(13.3%)
食欲が出た	2	(13.3%)
体調不良が軽減した、なくなった	1	(6.7%)
外出が増えた	5	(33.3%)
他の人と話すことが増えた	8	(53.3%)
自分の時間が出来た	4	(26.7%)
学校との連携が取りやすくなった	4	(26.7%)
学校や社会への考え方が変わった	7	(46.7%)
自分自身を見つめ直すことができた	6	(40.0%)
子どもの育ちや学びにおける価値観が変わった	9	(60.0%)
仕事に復帰又は仕事に就くことが出来た	4	(26.7%)
仕事を辞めた又は休職した	3	(20.0%)
収入が増えた	1	(6.7%)
収入が減った	4	(26.7%)
支出が増えた	8	(53.3%)
時間的拘束が減った	1	(6.7%)
時間的拘束が増えた	8	(53.3%)
その他 *	2	(13.3%)



*その他 の項目について

- ・学校に行かないことに不安と焦りしかなく、無理にでも行かせたかった夫ですが、少しはあきらめて、学校に行かないとこの先どうなるのか、と娘を責めることが減った(なくなっていない)のが良かったです。子どもが喜んで行っているのを見て、夫の気持ちが少しは、通常学校以外を認める気持ちに変化したのかなと思います。
- ・送り迎えの時間に拘束される、毎日のお弁当の準備、食費が増えた

■当フリースクールを利用することで保護者にとって最もよかった点を教えてください。

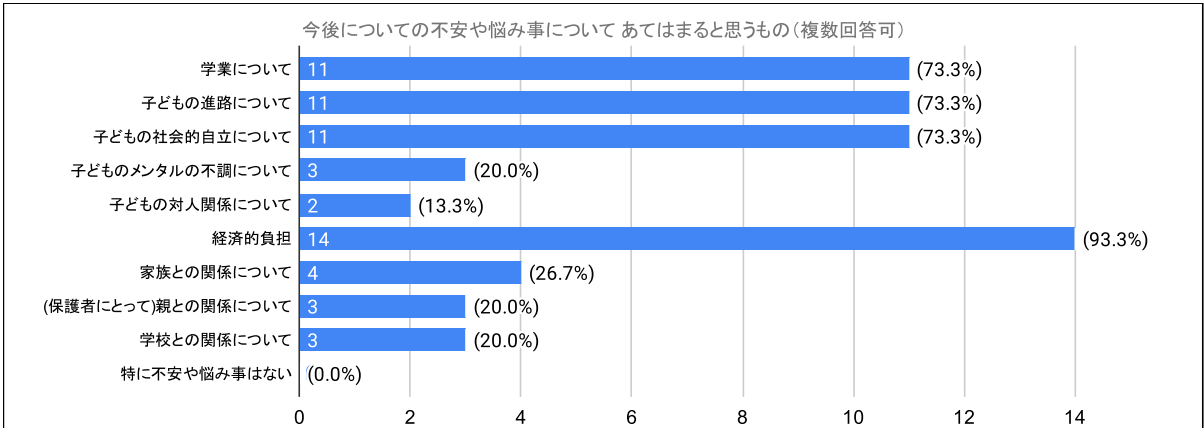
悩みをすぐ話せるのでストレスが減り前向きになった
子供が生き生きしている姿を見られた事
学校に行かなくても出席になるので、学校との交渉ややり取りが行き詰まった時にもう一つの居場所がある事で悩む時間が減った。
こともへのサポートがしっかりと考えられているので、1人でも安心して通わせられる点
活動日にスタッフやほかの保護者と気軽に話ができること。
学校をしんどがる娘を毎日見ないでもいいことがとても良かったです。夫も、COCOCARAに行くことをとにかく認めたので、登校するかどうかで娘がお父さんの顔をうかがうことがなくなり(学校外のことや勉強のことなどでまだいろいろと顔色を見ていますが)以前より気持ちが明るくなっているようです。娘がそうなったことが何よりです。
親とはまた違う人が子どもの気持ちを大切にしてくれて子どもが信頼していること
同じ立場で似たような悩みを抱えている保護者やスタッフの方と繋がれて、色々な話が出来ようになった点。
同じ境遇の人たちと接することは、色々な情報を得ることができてとても助かっています。
同じ境遇の方から色々な情報を得られることはとてもありがたと思います。
子どもが自暴自棄になることなく、自尊心を持って育つことができた
子どもが学校などのひとつの価値観でがんじからめにされるのではなく、自分らしく育つ環境があること
分りあえる母の友人が増えたこと。

■当フリースクールを利用する上で、保護者にとって困っていることや心配に感じていることがあれば教えてください。

行政からもっと金銭的補助があるとよい
送迎が私(母親)しかいないので、今は隙間を見つけて仕事をしているが、姉弟の環境の変化で、必ず仕事をもっとしなければならない状況が来た時に、通わせられるのが不安。小学生の頃から兄弟はフリースクールに通い、かなりの支出があり、苦労している。習い事したいと言われたら、どうしよう、と思ったりもする。
経済面。子供とフリースクールに参加することと仕事を続けることの両立はどのご家庭でも両立が難しいと思った。
活動時間が10時からなので、講座や野外保育のボランティアスタッフなど参加したいものがあったても、難しい状況です。
困っている点の1つめは通学方法と交通費です。学舎は遠方にあります。親の都合がつかない子は基本的に通えません。我が家に車がなく私もペーパードライバー、また勤務があるので子どもの通学に全く付き合えない状況の中、お陰様で鎌取駅まで電車、そこから多田の学舎までは保護者の皆さんの車に乗せて頂いています。これが全て自力で通うとなるとバスとなり、本数が少ない不便さと、バスのみだと交通費がかなりの額になります。また、鎌取駅まで電車利用ですが、通学定期ではなく、通常の乗車運賃です。難しいと思いますが公としての送迎車、または全額補助(個人負担無料)、少なくとも通学定期扱いを望みます。
困っている点の2つ目は、授業料です。COCOCARAは余裕のない経営状況の中、月謝を抑えてくださっていることを承知しています。それでも最寄りの公立校を選べば必要のない額の月謝(または出席の都度お支払い)を個人負担しており、補助はありません。家庭から全て捻出しており苦しい経済状況です。
また、そのことに困っているというほどではありませんが、開校日数の問題です。現在開校日は月9日ほどで、娘はCOCOCARAがない日は自宅ですりすごしています。開校日数の理由は、日数が増えると、今のままの授業料ではスタッフへの支払いや学舎の電気代などがまかなえない。人手が足りなくなるが人を増やして雇う経済的余裕はないことなどからこの日数に抑えているとのこと。これがクリアできれば通常の学校のように開けられるということです。娘はCOCOCARAを楽しんでおり、ありがたい居場所ですので、通常校と同じ日数、通えたと嬉しいです。
旦那の体調が不安定で仕事もあり家庭のことばかりであまりお役にたててないこと。
とても良い環境なので、もっと通う日数を増やしたいと本人が希望すれば増やしてあげたいのですが、交通費や月謝も高額になってくるので継続できるか心配です。
民間のフリースクールは、経済的負担が大きいことに困っています。
金銭面の問題、親が仕事の時間を取れないこと、ずっと子どもにつきっきりの生活が続いていること
やりたいこと、挑戦したいことのすべてをフリースクールだけでかなえるのが難しいこと
多忙によりスタッフ間でのコミュニケーション不足が心配。

■今後についての不安や悩み事について あてはまると思うもの(複数回答可)

学業について	11	(73.3%)
子どもの進路について	11	(73.3%)
子どもの社会的自立について	11	(73.3%)
子どものメンタルの不調について	3	(20.0%)
子どもの対人関係について	2	(13.3%)
経済的負担	14	(93.3%)
家族との関係について	4	(26.7%)
(保護者にとって)親との関係について	3	(20.0%)
学校との関係について	3	(20.0%)
特に不安や悩み事はない	0	(0.0%)



■「フリースクール等」に望むことがあればご記入下さい

公立学校と同じようにフリースクールに通う子ども無償で通えるようになったらいいです。同時にフリースクールへの支援が必要と思います。
何らかの理由で学校へ通うことが困難な子どもが、フリースクールに通い、お友だちやサポートしてくれる人々と関わり合うことで、学習面だけでなく、精神的にも多くの救いと学びを得ていると思う。そして、できる限りその機会を増やしたいと思う保護者がほとんどだと思うが、費用面で毎日通わせることが難しい、もしくは通わせることも困難な家庭もあると思う。
国や県は早急にフリースクールへの予算を出して欲しい。今、こうしている間にも、子どもたちは成長していて、その間、大事な学びの機会を失っているかもしれない。子どもが望むなら、少しでも多くの学びや人との関わり合いの機会を得ることができる環境を作ることが大人の責務だと思う。
子どもだけでなく、親も大切にされる場所であること。
通常の学校に通うのと同じように、学費も通学も、各家庭の負担とせず通えるようになることを望みます。スタッフや親の献身に頼らず運営できる仕組みを公的に支えて頂きたいです。また、心ある人たちがフリースクールの先生になることに希望を持てるといいです。フリースクールの先生として自立し、生活していける職場と確信できることを望みます。
スタッフのみなさんのお身体を大切に
行政からの補助金に関わってくることになると思うのですが、利用料金をもっと下げて頂けるとありがたいです。
家庭への経済支援、フリースクールや子ども支援に携わる団体への支援拡大を望む。私達保護者は税金を納めておきながら、子どもの義務教育(子どもにとっては教育を受ける権利である)を享受できないばかりか、家庭からフリースクールへ学費を支払うという、二重払いの苦しい現状を経験している。そればかりか、我が子のためにボランティアとしてフリースクールや居場所の活動に貢献することが求められると、親が十分に働けないという問題が起こりやすい。また、フリースクールは「子ども達のために」というやりがい搾取される形でのボランティア運営を余儀なくされていることも多い。子ども支援に携わる人材がボランティアという形で搾取され、社会の中で新しい仕事として育てていけなければ、フリースクールの存続は危うい。
経済支援とフリースクールへの活動資金の援助拡大
フリースクールはどれも精一杯。フリースクールより学校に望むことの方が多い。どうして連携を取ろうとしないのか？ボランティアベースのフリースクール側や保護者に全て任せて受け身である。(教育委員会も同様)。フリースクールが持続可能であるためには行政からの資金面での支援が絶対的に必要。そして家庭には一円も出ていない。学校にはひとり頭年間百万円くらい予算がついていると聞きます。行ける学校なら行っている。子どもたちが体全体でNOと言っているのだから、浮くはずの予算を少しでも家庭に回してくれないとう親は倒れます。フリースクールに通う費用の他に交通費、昼食代、他様々な体験をさせてあげるために行政が思っている以上のお金がかかっています。フリースクールの月謝だけでも低所得者では、ダブルワーク、トリプルワークをしても補えない。真面目に考えてほしい。本人の個性を伸ばせるやりたい事はあるけれども、フリースクール以外に習い事なんてとてもさせてあげられない。
余裕を持ってもらいたい
不登校家庭は社会では置き去り。国には家庭への早急な！経済的支援を切に願います。